



経営理念

私たち都営交通は、都民やお客様に信頼され、支持される公共交通機関として、安全・安心、快適なサービスを追求し、多様な主体と連携しながら、東京の都市活動や都民生活を支えています。

経営方針

- 都民やお客様の信頼に応えるため、安全・安心を最優先し、全職員が一丸となって、災害に強く、事故のない都営交通を実現します。
- お客様が求める質の高いサービスを提供し、快適で利用しやすい都営交通を実現します。
- 首都東京が抱える様々な課題に果敢に挑戦し、東京の発展に貢献する都営交通を実現します。
- 事業環境の変化に迅速かつ的確に対応しつつ、中長期的に安定した事業運営を行っていくため、強固な経営基盤を確立します。

CONTENTS

事業のあらまし	1
都営地下鉄	2
都営バス	14
東京さくらトラム（都電荒川線）	20
日暮里・舎人ライナー	23
関連事業	26
電気事業（発電）・モノレール	28
安全マネジメントの充実	29
環境対策の推進	30
お客様サービスの推進	31
経営状況	32
都営交通のあゆみ	34
組織と職員数・東京の交通	39
都営交通に関するご案内	40

事業のあらまし

都営交通（東京都交通局）は、東京都が経営する地方公営企業です。その運営は、お客様からいただく料金によって経費を賄う独立採算制を原則としています。

都営交通の歴史は、明治44（1911）年8月1日、東京市が電氣局を開局して、路面電車事業と電氣供給事業（火力発電事業）を開始したときに遡ります。その後、関東大震災で大きな被害を受けた市電の応急措置として、大正13（1924）年に乗合バス（市営バス）事業を開始しました。戦後は、昭和35（1960）年に都営地下鉄浅草線を開業、以降、三田線、新宿線、大江戸線を開業し、交通ネットワークの拡充を図ってきました。

さらに、平成20年3月30日に開業した新交通事業である「日暮里・舎人ライナー」や多摩川の流水を利用した電気事業の5事業を経営しています。なお、上野動物園内のモノレールは、令和5年12月27日付で廃止となりました。

都営地下鉄、都営バス、東京さくらトラム（都電荒川線）、日暮里・舎人ライナーは、一日平均約342万人（令和6年度）のお客様にご利用いただき、身近な交通機関として、東京の経済活動や都民の暮らしを支えています。

これまで、都営交通は、ホームドアの全駅整備や燃料電池バスの導入など、首都東京の公共交通事業者として、先導的な役割を

果たしてきました。一方、少子化の進展に伴う輸送需要や事業の担い手の減少、物価や労務単価等の急騰、激甚化する自然災害など、都営交通を取り巻く事業環境は厳しさや不確実性を増しています。

こうした中にあっても、お客様目線に立った輸送サービスの提供はもとより、まちの活性化や環境負荷の低減など、都の政策と連携して様々な価値を提供していくことが、首都東京の公共交通事業者として果たすべき役割です。

こうした認識のもと、令和7年度を初年度とする3か年の経営計画を令和7年3月に策定しました。この計画は、交通局の取り巻く事業環境の変化を踏まえ、経営の基本的な考え方や目指す姿を明らかにしたものです。

将来にわたり都営交通としての役割を果たしていけるよう、お客様のご理解・ご協力もいただきながら更なる変革を遂げ、明るい東京の未来に向けて走り続けていきます。

令和6年度 運輸成績総表

令和6年度の全事業の乗車人員は、年間で約1.2億4,830万人で、一日当たり約342万人でした。

乗車人員の事業別割合は、地下鉄77.2%、乗合バス18.5%、新交通2.9%、軌道1.5%でした。

事業	種類	営業キロ (km)	路線数 (路線)	在籍車両数 (両)	走行キロ (千 km)	乗車料収入		乗車人員	
						年間 (百万円)	一日当たり (千円)	年間 (千人)	一日当たり (人)
地 下 鉄		109.0	4	1,212	126,364	(135,598) 148,740	(371,503) 407,508	963,879	2,640,766
	浅 草 線	18.3	1	212	21,789	(31,303) 34,362	(85,761) 94,140	266,045	728,889
	三 田 線	26.5	1	248	25,510	(29,789) 32,673	(81,615) 89,516	235,920	646,355
	新 宿 線	23.5	1	280	32,199	(35,326) 38,760	(96,784) 106,193	270,239	740,380
	大 江 戸 線	40.7	1	472	46,866	(39,180) 42,945	(107,343) 117,659	324,469	888,957
自 動 車		—	—	1,453	42,617	(37,773) 40,489	(103,486) 110,930	230,911	632,634
	乗 合	768.7	126	1,448	42,471	(37,585) 40,283	(102,972) 110,365	230,735	632,149
	貸 切	—	—	5	146	(188) 206	(514) 565	176	485
軌 道		12.2	1	33	1,482	(2,353) 2,536	(6,447) 6,947	18,750	51,370
新 交 通		9.7	1	100	8,136	(6,190) 6,757	(16,958) 18,513	34,763	95,240
交 通 事 業 計		—	—	1,586	—	(46,316) 49,782	(126,891) 136,390	284,424	※ 779,244
計		—	—	2,798	—	(181,914) 198,522	(498,394) 543,898	1,248,303	※ 3,420,010

電 気	水力発電所 3ヶ所	多摩川第一発電所	認可最大出力	19,000kW	販売電力量	128,599MWh
		多摩川第三発電所	認可最大出力	16,400kW	(2,057 百万円)	
		白丸発電所	認可最大出力	1,100kW	電力料収入	2,263 百万円

- (注) 1 乗車料収入及び電力料収入のうち、()内は消費税抜きである。
2 乗車料収入及び乗車人員の一日当たりの計(表中※)は、乗車料収入及び乗車人員の年間数値を365日で除した値である(各事業の一日当たりの値の合計とは一致しない場合がある。)。
3 地下鉄事業の乗車人員計は浅草、三田、新宿、大江戸各線との乗り換え客を一人として計算したものであり、4線の乗車人員の単純合計ではない。

都営交通の運賃

令和7年4月1日現在

都営地下鉄	都営バス	東京さくらトラム(都電荒川線)	日暮里・舎人ライナー
180円～430円 (IC:178円～430円)	210円 (IC:210円) ※多摩地域、特殊路線を除く。	170円 (IC:168円)	170円～340円 (IC:168円～335円)

都営地下鉄

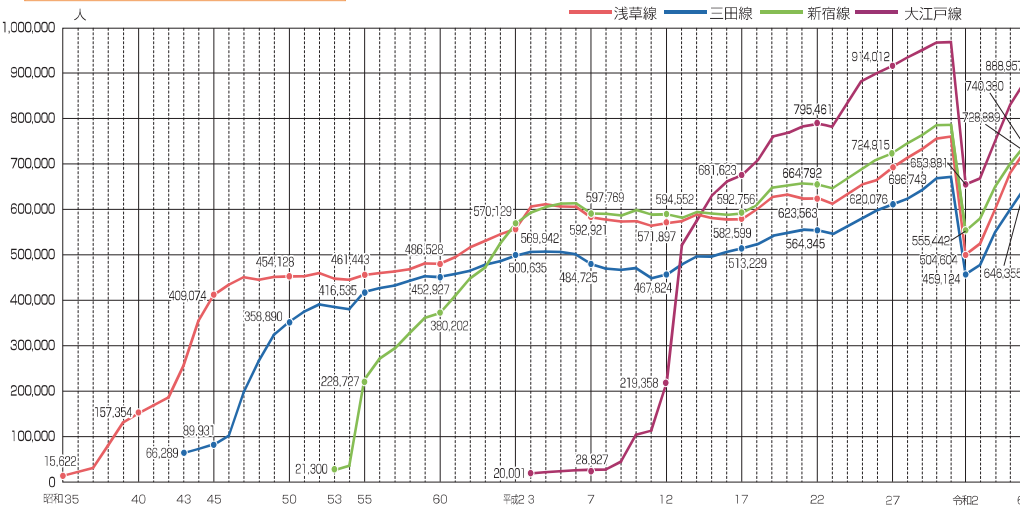
都営地下鉄は、浅草線・三田線・新宿線・大江戸線の4路線を営業し、令和6年度は、一日平均約264万人のお客様にご利用いただきました。初めての営業は、昭和35年12月の浅草線(浅草橋～押上間)で、以来、昭和43年12月に三田線、昭和53年12月に新宿線、平成3年

12月に大江戸線を開業し、各線の延長・拡充を図ってきました。平成12年12月には、大江戸線が全線開業(汐留駅は平成14年11月開業)し、4路線を合わせ、営業キロは109.0km、駅数は106駅となりました。

営業線の概要		令和7年4月1日現在			
線区	営業区間	浅草線	三田線	新宿線	大江戸線
	営業キロ(うち地上部分)	18.3km	26.5km(5.1km)	23.5km(2.5km)	40.7km
	駅数(うち地上駅)	20駅	27駅(6駅)	21駅(2駅)	38駅
車両規格	形式	5500形	6300形 6500形	10-300形	12-000形 12-600形
	在籍車両数	212両	144両 104両	280両	232両 240両
	両数×編成	8両×27編成	6両×24編成 8両×13編成	10両×28編成	8両×29編成 8両×30編成
	車両長	18m	20m	20m	16.5m
	定員(先頭車(中間車))	121人(134人)	136人(147人)	136人(149人)	90人(100人) 84人(95人)
	運転・保安装置 ※1	C-ATS	ATC/ATO	ATC	ATC/ATO
運転	軌間	1,435mm	1,067mm	1,372mm	1,435mm
	電気方式	直流 1,500V	直流 1,500V	直流 1,500V	直流 1,500V
	最短運転間隔	2分30秒	2分30秒	2分30秒	3分00秒
	表定速度(カ/コ内はエアポート快特行)	北行29.0 南行29.2km/h(33.5km/h)	30.4km/h	西行34.0 東行34.0km/h(西行47.4 東行47.1km/h)	内回り※4(光が丘発) 29.0km/h 外回り(都庁前発) 29.2km/h
	最高速度	70.0km/h	75.0km/h	75.0km/h	70.0km/h
運転	運転所要時分(カ/コ内はエアポート快特行)	北行37分55秒 南行37分40秒(※2 20分25秒)	北行52分20秒 南行52分15秒	西行41分30秒 東行41分30秒(西行29分45秒 東行29分55秒)	内回り※4 84分15秒 外回り 83分30秒
	直通運転	京急線、京成線、北総線、芝山線	東急線、相鉄線	京王線	—

- ※1 ATS=自動列車停止装置 ATC=自動列車制御装置 ATO=自動列車運転装置
- ※2 泉岳寺～押上間のエアポート快特
- ※3 目黒～白金高輪間は、第二種鉄道事業免許により、東京メトロ南北線の施設を共用
- ※4 内回りは、光が丘発～都庁前～大門～両国～都庁前着、外回りは、都庁前発～両国～大門～都庁前～光が丘着

路線別乗車人員の推移(一日平均)



浅草線

区間	営業キロ(km)	開業年月日
浅草橋～押上	3.1	昭35.12.4
東日本橋～浅草橋	0.7	37.5.31
人形町～東日本橋	0.7	37.9.30
東銀座～人形町	2.4	38.2.28
新橋～東銀座	0.9	38.12.12
大門～新橋	1.0	39.10.1
泉岳寺～大門	2.8	43.6.21
西馬込～泉岳寺	6.9	43.11.15
営業キロ計	18.3	



三田線

区間	営業キロ(km)	開業年月日
三田～高輪平	10.4	昭43.12.27
日比谷～三田	7.3	47.6.30
三田～日比谷	3.3	48.11.27
高輪平～西馬込	1.5	51.5.6
目黒～三田	4.0	平12.9.26
営業キロ計	26.5	



新宿線

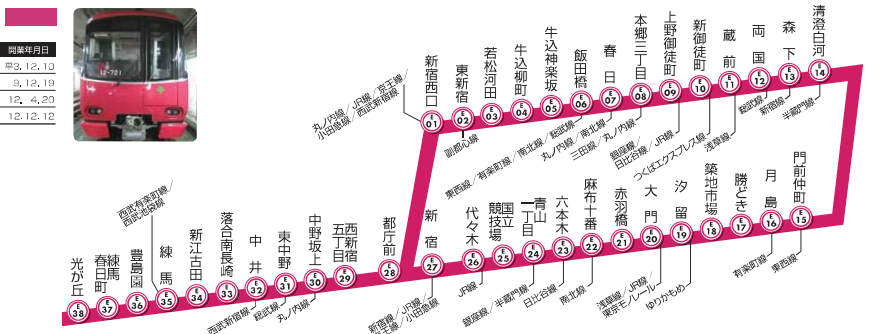
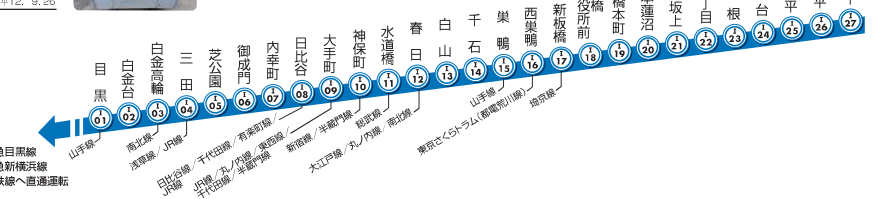
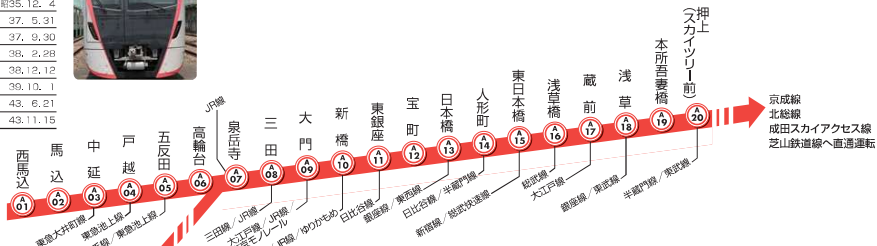
区間	営業キロ(km)	開業年月日
岩本町～東大塚	6.3	昭53.12.21
新宿～東大塚	7.3	55.9.16
東大塚～船場	1.7	58.12.23
船場～有楽町	4.8	61.9.14
有楽町～有明	2.8	平元.3.19
営業キロ計	23.5	



大江戸線

区間	営業キロ(km)	開業年月日
練馬～光が丘	3.8	平3.12.1
新宿～練馬	9.1	9.12.19
国立競技場～新宿	2.1	12.4.20
船場～国立競技場	25.7	12.12.12
営業キロ計	40.7	





〈安全・安心の確保〉

◆列車運行管理◆

列車運行制御装置（PTC）を導入しています。これは、駅にある転てつ器（ポイント）と信号機を総合指令所で集中的に制御して、列車の運行状況を監視しながら、列車の効率的な運行管理を行うシステムです。

総合指令所には、路線の運行状況を表示する「運行表示盤」が置かれ、列車の動きが効率的に把握できるようになっています。また、総合指令所では、地下鉄各所に設置した、地震計と風速計の気象観測データを一括管理し、安全を確保するための運転規制等を行っています。



▲総合指令所

◆C-ATS(改良型自動列車停止装置)

列車の運転速度が、線路脇に設置された信号機に示される信号の許容速度を超えると自動的にブレーキをかけて減速または停止させる従来のATSに、曲線制限速度や進路の条件による制御を加え、ATCと同様なきめ細かな速度制御機能を付加したC-ATSを浅草線に導入しています。



▲C-ATS運転台の表示器

◆ATC(自動列車制御装置)

列車の運転速度が、先行列車との間隔及び進路や曲線制限速度などの条件によって決定され、列車内に設けた車内信号装置に示される速度を超えると、自動的にブレーキをかけて減速又は停止させることにより、列車の速度を制御するATCを三田線・新宿線・大江戸線に導入しています。



▲新宿線の運転席

◆安全確保のための保安設備◆

◆列車無線装置

全列車に、乗務員と総合指令所の指令員が随時連絡できる列車無線装置を設置しています。緊急時に架線の送電を止める必要が生じたとき（非常発報（注））や、列車の緊急停止が必要なとき（防護発報（注））に、列車無線により総合指令所に異常を通知して、送電停止や緊急停止を行い、安全を確保しています。

（注）非常発報は全線、防護発報は、三田線、新宿線、大江戸線のみ



▲列車無線装置

◆非常通報器

全車両に非常通報器を設置し、列車内で異常事態が発生した場合に、お客様から乗務員または総合指令所に通報できるようになっています。



▲SOSマーク

▲非常通報器

◆車内防犯カメラ

迷惑行為や痴漢等犯罪の未然防止、テロ対策などセキュリティ強化を図るため、2024年度までに全ての車両での設置を完了しました。



▲浅草線AS-500形 ▲三田線AS-600形
防犯カメラ 防犯カメラ

◆脱線防止ガード

急な曲線区間（カーブ）を車両が通過する際に、脱線防止するためのものです。図のように、レールの内側に沿って車輪を挟みこむようにL字鋼を敷設しています。



▲脱線防止ガード

◆限界支障検知器

ワンマン運転を実施している三田線・大江戸線の複線シールド区間及び三田線の高架部の上下路線の中間に50m間隔で設置し、脱線事故時の列車防護を行うものです。この限界支障検知器が作動すると、走行中の列車は停止します。



▲限界支障検知器

◆ホームでの安全対策◆

◆非常停止ボタン

ホーム上や線路内で異常事態が発生した場合、駅付近を走行中の列車を非常停止させる非常停止ボタンを全駅に設置しています。



◆駅係員呼出インターホン

ホーム上で緊急事態が発生した場合や、お客様のご案内が必要な場合などに、いち早く駅係員へ連絡ができます。



駅係員呼出インターホン▶

◆ITVモニター装置

列車が駅を出発する際や停車中に、乗務員がお客様の乗り降りやホーム上の安全を確認するものです。



▲ITVモニター

◆視覚障害者誘導用ブロック

目の不自由なお客様が、安全かつ確実に乗車できるよう、全駅の出入口から車両の乗降口に至る経路上に視覚障害者誘導用ブロックを敷設しています。



▲誘導ブロック

◆ホームドア(可動式ホーム柵)

ホームでのお客様の安全な乗降を確保するため、都営地下鉄全駅に腰高式のホームドアを設置しています（白金台駅と白金高輪駅はフルハイトタイプ）。



▲浅草線のホームドア(可動式ホーム柵)

◆車両連結部の転落防止幌

浅草線と新宿線の車両には、直通運転先のホームドアのない駅でのホームから車両連結部への転落を防止するため、幌を設けて車両間のすき間を少なくしています。



▲転落防止幌

◆定期検査と点検◆

車両、軌道、架線、信号、通信ケーブル、トンネル、高架、橋梁などの点検・整備を、定期的に行っています。



▲車両点検状況▲

◆地下鉄構造物の長寿命化◆

地下鉄構造物の長寿命化及び補修費用の平準化を図るため、予防保全型の工事手法に基づき、浅草線、三田線、新宿線で工事を実施しています。



▲長寿命化工事

◆自然災害に対する備え◆

◆地震対策

阪神・淡路大震災を契機とした耐震補強は完了し、安全性は確保していますが、現在は、施設の安全性をより一層高めるとともに、早期の運行再開を図るための更なる対策として、地下鉄駅の中柱の耐震補強を進めています。



▲耐震補強工事を施した地下部の柱

◆リスタート機能付エレベーター

震災時におけるエレベーター内への閉じ込めリスクを軽減するため、地震の揺れを感じし階間で停止した場合、安全が確認された後、最寄階でドアを開放するリスタート機能を設置しています。

◆浸水対策

駅出入口など開口部からの浸水を防ぐため、止水板や防水扉等を設置しています。



▲止水板



▲防水扉

◆強風対策

高架部や橋梁部を走行する際、強風の影響による事故を未然に防ぐため、新宿線の荒川橋梁等、都営地下鉄においては2か所に風速計を設置しています。



▲風速計

◆ゾーン地震計

地下鉄線内16か所に設置しています。地域ごとの震度を的確に測定し、地震発生時の点検作業のスピードアップを図り、安全を確認した上で、早期に運転を再開させます。



▲ゾーン地震計の管理画面

◆駅施設での災害対策◆

◆火災対策

駅施設・トンネル内設備及び車両は、最も厳しい基準に基づき可燃性又は難燃性のものを使用しています。万一、駅やトンネル内で火災が発生したときのために、駅構内に自動火災報知設備、非常放送設備、誘導灯などを設置しているほか、停電に備えて蓄電池や非常用発電機も設置しています。

また、国土交通省や東京消防庁の定めた基準等に基づき、駅の排煙設備の整備や避難経路の確保等火災に対する安全性の確保に努めています。さらに、東京都火災予防条例に基づき、蓄光式避難誘導明示物を全駅に設置しています。



▲蓄光式避難誘導明示物

◆帰宅困難者対策

首都直下地震等の大規模地震発生時に、地下鉄駅構内でお客様を一時的に保護するために必要な災害対策用備蓄品（飲料水、防寒用ブランケット、簡易マット、簡易・携帯用トイレ及び簡易ライト）を都営地下鉄の管理駅全101駅に合計約5万人分配備しています。



▲帰宅困難者向けの備蓄品

◆防災監視盤

駅長事務室には、防災監視盤を設置しており、ITVモニターや放送装置などによって、すぐにお客様の避難誘導に対応できるようになっています。



▲防災監視盤

◆各種訓練◆

◆異常時総合訓練

大きな地震による列車の脱線等を想定し、連絡通報、乗客の避難誘導、負傷者の救出、施設復旧等を内容とした訓練を駅、運転及び保守の各部門合同で実施しています。



▲乗客の避難誘導訓練



▲負傷者の救出訓練

◆自然災害対応訓練

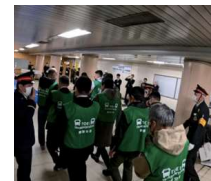
集中豪雨による駅出入口からの大規模な浸水を想定し、止水板及び土のうの設置手順や各部門間の情報伝達を確認するための訓練を実施しています。



▲止水板及び土のうの設置訓練

◆都営地下鉄・東京メトロ合同訓練

都営地下鉄及び東京メトロの係員が相互に連携を図り、連絡通報、異常時対応等の手順を確認する訓練を実施しています。令和6年度は、大手町駅にて不審物が発見された想定のもと、両社局の係員が協力して警察・消防等への連絡通報、駅構内のお客様の避難誘導などの対応訓練を行いました。



▲帰宅困難者への対応訓練

◆地下鉄運転シミュレータの活用

地下鉄の車掌や運転士、指導職員員の養成や成業後の研修に活用し、基本操作の習熟や技能の向上を図るとともに、事故など様々な場面に処する訓練も行い、異常時対応能力の向上に努めています。

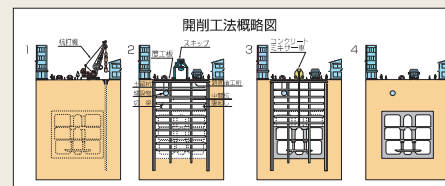


地下鉄の建設

地下鉄の建設工事は、トンネルの深さ、付近の地形や土質、埋設物や街路の状況、沿道の建物や構造物などを考慮し、周囲の環境や沿道に住む人々たちへの影響を最小限にとどめることを最優先に、最適な工法により工事を行っています。

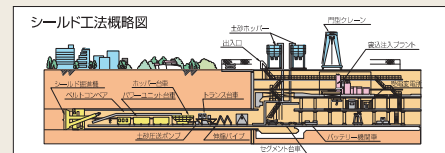
◆開削工法◆

工事範囲に杭を打設し、予定の深さまで地面を掘り下げたのち、構築物を築造する工法で、駅部などに採用しています。



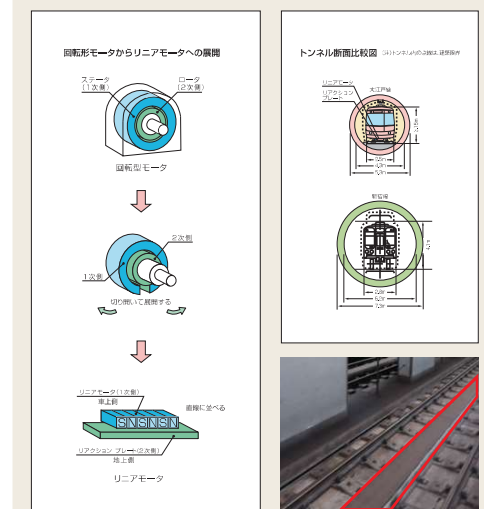
◆シールド工法◆

地中深くをもぐらのように掘り進む工法です。この工法は地表面に影響がほとんどなく、安全に工事が進められるという利点があります。地下鉄がだんだん深くなってきた昨今、駅間のトンネルはほとんどこの工法を採用しています。



リニアモータ

大江戸線では、リニアモータを使用しています。リニアモータ方式には、「浮上式」と「車輪式」があり、大江戸線は「車輪式」を採用しています。これは、車輪に取り付けられたリニアモータとレールの間に敷いた、リアクションプレートとの間の磁力を利用して推進力を得る方法です。リニアモータを用いることにより、車両のコンパクト化、急カーブ・急勾配のスムーズな走行が可能になりました。



▲リアクションプレート

〈輸送サービスの充実〉

◆PASMO(パスモ)◆

PASMOは㈱パスモが発行するICカードです。首都圏の主な鉄道・バスの乗車をはじめ、電子マネーとして加盟店でのショッピングも可能です。JR東日本が発行するSuica(スイカ)との相互利用に加え、平成25年3月からPASMO・Suicaを含む10の交通系ICカードによる全国相互利用サービスを開始しました。

また、対応端末にアプリケーションをインストールすることで従来のICカードと同様のサービスが利用できる、「モバイルPASMO」のサービスを令和2年3月から、「Apple PayのPASMO」のサービスを令和2年10月から、「Google PayのPASMO」のサービスを令和4年9月から開始しました。



▲PASMO

PASMO・モバイルPASMOは株式会社パスモの登録商標です。Apple Payは、Apple Inc.の商標です。Google Payは、Google LLCの商標です。

◆ToKoPo(トコポ)◆

平成23年8月からPASMOを活用したポイントサービス「ToKoPo(トコポ)」を開始しました。ToKoPoに入会し、登録したPASMOで都営交通をSF(注)利用するとポイントが貯まり、貯まったポイントはPASMOにチャージすることができます。



▲ToKoPoロゴ

(注)PASMOにチャージ(入金)された、運賃に利用できる金額

◆TOEISマート定期券予約◆

令和6年3月5日から、事前にWebサイトでPASMO定期券の購入予約を行うことで、定期券発売所に長時間お並びいただくことなく定期券を購入できるサービス「TOEISマート定期券予約」を開始しました。予約した定期券は、都営地下鉄及び日暮里・舎人ライナーの対象の自動券売機に「予約完了QRコード」をかざすことで購入いただけます。

◆案内サイン◆

多言語表記やビクトグラムの活用などによる、誰にでもわかりやすい案内サインを設置しています。また、ホーム上の案内板のデザインを統一するなど、東京メトロと案内サインを共通化しています。



▲ホーム案内板

◆地上駅待合室◆

平成27年11月から蓮根駅、平成28年3月から高島平駅で待合室の供用を開始しました。現在、三田線志村三丁目駅・蓮根駅・西台駅・高島平駅・新高島平駅と、新宿線東大島駅・船堀駅でご利用になれます。冷暖房用空冷式パッケージエアコンやベンチ等を設置し、猛暑や厳寒の日でも快適に電車をお待ちいただけます。



▲東大島駅待合室

◆女性専用車◆

お客様により安心してご利用いただけるよう、平日朝のラッシュ時間帯に、新宿線、大江戸線で女性専用車を運行しています。

なお、女性専用車は小学生以下の方、お身体の不自由な方とその介護者の方もご乗車いただけます。

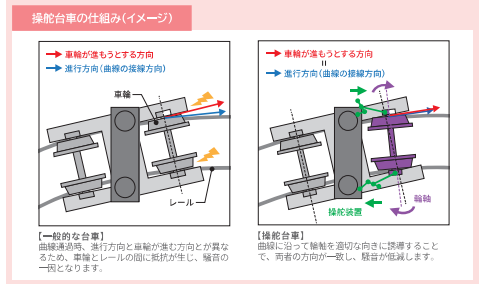


◆大江戸線の車内騒音低減◆

大江戸線は、他の路線に比べ、トンネル断面が小さく走行音が反響しやすいことに加え、急曲線、急勾配が多いことから、車輪とレールとの摩擦等により走行音が大きくなりやすい構造となっています。

曲線走行時の車内騒音の低減に向けて、2024年度に操舵台車*を試験導入し、現在本格導入に向けた検討を進めています。

*操舵台車: 従来、台車に固定されていた車輪の向きをレールの曲線に合わせて、曲線の走行をスムーズにする台車



◆タブレット端末の配備◆

お客様に迅速できめ細かなご案内を行うため、平成28年4月1日よりタブレット端末の配備を開始しました。現在、都営地下鉄全駅(交通局が管理する101駅)、日暮里・舎人ライナー(2駅)の改札口等、定期券発売所(12箇所)(R7.4.1現在時点)及び浅草線と新宿線の乗務員(車掌)に配備が完了しています。

◆外国人旅行者等へのサービス◆

◆駅ナンバリング

東京メトロと共同で、外国人旅行者をはじめ、誰にでも東京の地下鉄をわかりやすくご利用いただくため、地下鉄の路線名と駅名に固有のアルファベットと番号を併記しています。



▲駅ナンバリング▶



▲訪日外国人向け自動券売機

◆列車運行情報表示装置

都営地下鉄及び鉄道各社の運行情報や遅延情報等を日本語、英語、中国語、韓国語で提供しています。全駅の改札口付近に、設置しています。



▲列車運行情報表示画面

◆行先案内表示器

都営地下鉄の列車種別、行き先、出発予定時刻、乗換・接続案内、列車接近情報等を日本語、英語、中国語、韓国語で提供しています。全駅のホームに設置しています。



▲行先案内表示器

◆無料Wi-Fiサービスの提供

令和5年4月1日から、大江戸線都庁前駅の都営交通案内所付近でOpenRoaming(注)に対応した無料Wi-Fiを提供しています。

(注)無線通信の暗号化と認証により、高いセキュリティを確保するとともに、一度の登録で、世界中の対応スポットで自動的に接続できる高い利便性を兼ね備えた、Wi-Fiサービス

◆JNTO認定外国人観光案内所

平成26年12月25日から、大江戸線都庁前駅の都営交通案内所は日本政府観光局(JNTO)から外国人観光案内所カテゴリー2(注)の認定を受けています。

(注)少なくとも英語で対応可能なスタッフが常駐し、広域の案内を提供

◆コンシェルジュ

外国人旅行者や高齢者など鉄道の利用に不慣れなお客様へのご案内のため、地下鉄の主な駅にコンシェルジュを配置しています。



▲コンシェルジュ

◆訪日外国人向け自動券売機

平成29年2月から、外国人旅行者の利用が多い駅33駅に、路線図や観光スポット等から行先を選択し乗車券を購入できる券売機(8言語対応)を導入しています。

◆ツーリストインフォメーションセンター(TIC)

平成30年3月10日、大江戸線上野御徒町駅構内にツーリストインフォメーションセンター(TIC)を開設しました。また、令和3年7月21日には新橋駅と新宿西口駅の構内にTICを新たに設置しました。英語・中国語が話せるスタッフが常駐し、駅周辺施設、地下鉄や他の交通機関の利用方法及び観光情報のご案内や、各種案内冊子の配布等を行っています。



▲上野御徒町駅TIC

◆Tokyo Subway Ticket

国内外の旅行者を対象にした、使用開始から24・48・72時間に限り、都営地下鉄と東京メトロ全線が乗り放題となる乗車券です。交通局では、ツーリストインフォメーションセンター(上野御徒町駅、新橋駅、新宿西口駅)及び三輪橋駅もいづれで発売しています。

令和2年3月からは、オンライン決済により取得したQRコードを、訪日外国人向け自動券売機にかざして発券できるようになりました。



▲Tokyo Subway Ticket

◆Google マップ「インドアライブビュー」

外国人旅行者等、東京の地下鉄に不慣れなお客様でも、駅構内から地上の目的地まで迷わず快適に移動していただくことを目指し、令和6年1月から都庁前駅でGoogle マップの「インドアライブビュー」を導入しました。

その後、導入駅を拡大し、現在、都営地下鉄32駅及び日暮里・舎人ライナー2駅でご利用いただけます。

Google、Google マップは、Google LLCの商標です。

◆翻訳対応透明ディスプレイ

令和6年2月から、音声認識やキーボード入力した内容を翻訳・字幕表示できる透明ディスプレイの試験導入を開始し、現在、都庁前駅をはじめ7駅に設置しています。相手の顔を見ながら字幕を確認できるため、外国人旅行者や聴覚に障害のあるお客様と、より円滑なコミュニケーションが可能です。



▲翻訳対応透明ディスプレイ

〈ひとにやさしい都営地下鉄〉

◆駅のバリアフリー化◆

「公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン」の趣旨を踏まえて、駅のバリアフリー化を進めています。

平成25年度に、全ての駅でエレベーター等による1ルート確保（注）を完了しました。さらに駅のバリアフリー化をより一層進めるため「乗換駅等でのエレベーター整備による乗換経路のバリアフリー化」や「バリアフリールート複数化」を進め、利便性の向上を図っています。また、ご高齢の方、お身体の不自由な方や乳幼児をお連れの方などが利用できるよう配慮した設備やスペースがあるトイレや、車いす使用の方にも利用しやすい低位型自動券売機、駅構内の設備を点字や音声でご案内する「触知案内板」なども設置しています。

（注）ホームから改札階、改札階から地上までエレベーター等を利用して移動できるルートをも1ルート以上確保すること。

都営地下鉄106駅のバリアフリー化の状況

	令和7年4月1日現在
エレベーターのある駅	106駅(100%)
1ルートの確保された駅	106駅(100%)
エスカレーターのある駅	104駅(98%)
車椅子使用者対応トイレのある駅	106駅(100%)

（注）点字運賃表、点字対応の自動券売機、視覚障害者誘導用ブロックはすべての駅に備えています。



▲地上と改札フロアを結ぶエレベーター



▲エスカレーター



▲低位型自動券売機



▲スロープ



▲通路幅の広い改札機



▲触知案内板



▲車椅子使用者対応トイレ

◆車両のバリアフリー化◆

◆フリースペース

車いすをご利用のお客様、ベビーカーをご利用のお客様、大きなお荷物をお持ちのお客様等にご利用いただけるフリースペースを全ての車両に設置しています。一部の編成は全車両にフリースペースを設置しています。



▲優先席、低い吊り手、低い荷棚、つかまりやすい段の手すり

◆優先席

全ての車両に優先席を設置しています。

◆車内点字シール

全車両の各ドアに点字シールを取り付けています。

◆低い吊り手

全車両に「低い吊り手」を設置しています。

◆さらなる取組

新造車両では、座席間の縦手すりや低い荷棚を設置し、利便性の向上を図っています。

車内ドア上部には、点滅でドアの開閉を知らせる表示灯のほか、液晶モニターで列車の種別・行先などの案内情報の充実や都政に関する情報等の発信に協力しています。また、ドアが開いていることを示すための音声案内装置を設置しています。



▲浅草線5500形の車内点字シール



案内情報装置とドア開閉表示灯

◆子ども・子育て支援◆

◆子育て応援スペース

小さなお子様連れのお客様に安心して気兼ねなく電車をご利用いただけるよう、令和元年7月から、一部の新型車両において、2か所のフリースペースに「子育て応援スペース」を順次設置しています。



▲子育て応援スペース

◆改札通過通知サービス「まもレール」

お子様の育成・見守り支援として、令和2年4月から、JR東日本とセントラル警備保障の共同事業である「まもレール」（予め登録したICカードで駅の自動改札機を通過した際、保護者等に通過情報をメールで配信するサービス）に参画しています。令和3年1月からは、見守り対象者をシニア（65歳以上）と障害をお持ちの方（19歳以上）にも拡大し、令和7年4月1日からは、見守り対象者を18歳以上の全ての方にも拡大しました。

◆こどもスマイルスポット

赤ちゃんや小さなお子様とお出かけをサポートする拠点として、大江戸線・上野御徒町駅、新宿西口駅及び門前仲町駅に「こどもスマイルスポット」を設置しています。スポット内には、授乳室や乳児用液体ミルクなどの育児用品が購入できる自動販売機を設置しているほか、ベビーカーレンタルサービスも提供しています。



▲（左）自動販売機（中央）ベビーカーレンタルサービス「ベビカル」



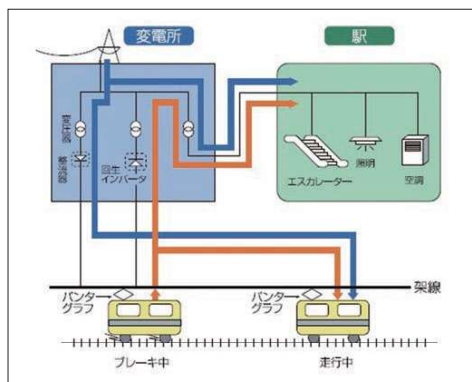
▲ソファや棚が付いた授乳室

〈環境にやさしい都営地下鉄〉

◆電力回生システム◆

列車を走らせるために使うモーターを、ブレーキ時は発電機として動作させることにより、列車のもっている走行エネルギーを電力に変換するものです。発生した電力は架線に戻して他の列車の走行電力に利用したり、変電所に送り返して駅の照明やエスカレーターの電力として再利用しています。

地下鉄の全列車に、このシステムを採用しています。



▲電力回生システム

◆省エネルギー車両◆

地下鉄の全車両にVVVF制御（注）を採用し、環境負荷の低減に配慮した省エネルギー車両を導入しています。

（注）VVVF制御：Variable Voltage Variable Frequency（可変電圧・可変周波数）制御の略。直流をインバータで交流に変換して、交流のモーターで駆動する方式で、電力の効率的な使用が可能

◆AEDの設置◆

お客様が急に心停止状態等になられた場合に対応するため、全駅にAED（自動体外式除細動器）を設置しています。

また、全ての駅係員が救命救急講習を受講しています。

AED▶



◆サービス助士◆

サービス助士は、ご高齢の方やお体の不自由な方が、安心して社会参加できる環境を整えるため、お迎えする側に必要な「おもてなしの心」と「安全な助士技術」を学ぶ資格です。

お客様に快適に安心してご利用いただけるよう、地下鉄の駅係員や乗務員がサービス助士の資格を取得する取組を進めています。



▲バッジ

◆駅・車両等の照明のLED化◆

駅や車両にLED照明を導入することにより、省エネ化、環境負荷の低減及び長寿命化を進めています。



▲浅草線5500形車内LED灯

◆屋上緑化・壁面緑化◆

環境負荷の低減を図るため、局施設の屋上緑化、壁面緑化を進めています。



▲屋上緑化（高島平総合庁舎）

〈各駅の概要〉

令和7年4月1日現在。ただし、「一日平均乗降人員」は令和6年度実績

全線合計	一日平均乗降人員（人）		ホーム形式	深さ（m）	エスカレーター	エレベーター	1ルート の確保	車椅子使用者 対応トイレ	駅冷房
	乗車	降車							
計106駅	2,640,766	2,640,766	島式74駅 相対式30駅 上下式2駅	—	104駅 798基	106駅 253基	106駅	106駅	98駅

浅草線	一日平均乗降人員（人）		ホーム形式	深さ（m）	エスカレーター	エレベーター	1ルート の確保	車椅子使用者 対応トイレ	駅冷房
	乗車	降車							
西馬込	22,144	21,492	相対式	9.0	6	3	○	○	○
馬込	13,416	12,930	島式	12.7	1	2	○	○	○
中延	14,044	13,859	島式	11.0	1	2	○	○	○
戸越	10,897	10,402	島式	11.0	1	2	○	○	○
五反田	29,448	29,729	島式	12.1	4	2	○	○	○
高輪台	6,833	7,136	島式	18.2	4	1	○	○	○
泉岳寺	104,576	105,306	島式2面	11.4	2	1	○	○	○
三田	53,697	53,863	島式	12.5	10	1	○	○	○
大門	51,586	51,695	相対式	7.9	10	3	○	○	○
新橋	44,481	44,059	相対式	13.8	6	2	○	○	○
東銀座	42,241	43,268	相対式	9.4	2	2	○	○	○
宝町	15,285	15,737	相対式	13.6	5	2	○	○	○
日本橋	47,076	47,603	相対式	12.9	8	3	○	○	○
人形町	27,531	27,159	島式	15.6	1	3	○	○	○
東日本橋	39,959	39,898	相対式	8.6	2	1	○	○	○
浅草橋	30,196	29,829	島式	11.6	5	2	○	○	○
蔵前	21,287	21,058	相対式	7.5	2	2	○	○	○
浅草	27,020	31,990	相対式	16.6	1	3	○	○	○
本所吾妻橋	10,936	10,546	相対式	9.6	2	2	○	○	○
押上	116,237	111,329	島式2面	7.0	3	3	○	○	○
浅草線計	728,889	728,889	島式10駅	平均 11.6	19駅 74基	20駅 42基	20駅	20駅	20駅
			相対式10駅						

三田線	一日平均乗降人員（人）		ホーム形式	深さ（m）	エスカレーター	エレベーター	1ルート の確保	車椅子使用者 対応トイレ	駅冷房
	乗車	降車							
目黒	55,430	52,726	島式	18.7	12	2	○	○	○
白金台	4,848	5,462	相対式	28.3	22	3	○	○	○
白金高輪	12,247	12,551	島式2面	29.8	14	5	○	○	○
三田	52,348	52,744	上下式	3番17.6	19	2	○	○	○
				4番23.8					
芝公園	13,895	14,128	相対式	20.6	5	3	○	○	○
御成門	21,360	21,870	島式	19.1	8	2	○	○	○
内幸町	18,644	19,381	島式	21.3	10	2	○	○	○
日比谷	42,675	43,173	島式	13.3	4	1	○	○	○
大手町	54,339	55,261	島式	12.9	5	3	○	○	○
神保町	69,687	69,764	島式	16.0	6	2	○	○	○
水道橋	23,178	24,058	島式	15.7	3	2	○	○	○
春日	36,039	35,847	相対式	13.4	8	3	○	○	○
白山	24,323	24,065	相対式	17.9	5	3	○	○	○
千石	15,665	15,439	島式	13.3	1	2	○	○	○
巣鴨	43,731	44,377	島式	13.4	9	2	○	○	○
西巣鴨	14,987	14,573	島式	13.9	3	2	○	○	○
新板橋	15,023	14,949	島式	11.5	2	2	○	○	○
板橋区役所前	17,767	17,747	相対式	10.8	1	3	○	○	○
板橋本町	19,100	18,455	相対式	10.4	3	2	○	○	○
本郷沼	12,741	12,449	相対式	10.6	2	2	○	○	○
志村坂上	15,059	15,091	相対式	11.5	4	3	○	○	○
★ 志村三丁目	15,175	14,880	相対式	7.4	1	2	○	○	○
★ 蓮根	9,779	9,584	島式	7.8	1	1	○	○	○
★ 西台	12,774	12,831	相対式	8.7	1	2	○	○	○
★ 高島平	13,939	13,850	島式2面	10.1	1	2	○	○	○
★ 新高島平	4,808	4,726	相対式	8.5	2	2	○	○	○
★ 西高島平	6,595	6,375	相対式	7.7	2	2	○	○	○
三田線計	646,355	646,355	島式14駅	平均 16.5	26駅 152基	27駅 62基	27駅	27駅	21駅
			相対式12駅						
			上下式1駅						

- ★赤字は地上駅（高架駅）
- 「深さ」は、駅中心の地表からホーム面までの距離（高架駅の「深さ」は高さを表示）。各線の平均値は、高架駅を除く。
- 「一日平均乗降人員」は、各駅別に四捨五入しているため、それぞれの合計値と各線ごとの計および全線合計の数値は異なる。
- 乗車人員は都営線相互の乗り換え客を一人として計算したものであり、4線の乗車人員の単純合計ではない。

- 携帯電話は、全駅で使用可能
- エスカレーター・エレベーターには、都所有以外のものも含む。
- 1ルート[※]の確保とは、ホームから改札階、改札階から地上までエレベーター等を利用して移動できるルートが1ルート以上確保された駅をいう。
- 駅冷房は地下駅において、100%実施済み
- ★赤字は待合室設置駅
- 「車椅子使用者対応トイレ」は、高齢の方、お身体の不自由な方や乳幼児をお連れの方などが利用できるよう配慮した設備やスペースがあるトイレ

令和7年4月1日現在。ただし、「一日平均乗降人員」は令和6年度実績

新宿線	一日平均乗降人員（人）		ホーム形式	深さ（m）	エスカレーター	エレベーター	1ルート の確保	車椅子使用者 対応トイレ	駅冷房
	乗車	降車							
新宿	145,957	143,443	島式	26.5	14	1	○	○	○
新宿三丁目	35,577	37,090	島式	19.1	12	2	○	○	○
麹町	18,451	17,952	相対式	17.4	8	3	○	○	○
市ヶ谷	44,429	45,679	相対式	17.5	9	3	○	○	○
九段下	55,436	55,761	相対式	19.2	18	4	○	○	○
神保町	61,571	61,810	相対式	9.2	9	5	○	○	○
小川町	36,390	36,864	島式	22.1	8	3	○	○	○
岩本町	26,109	26,221	島式2面	24.4	12	3	○	○	○
馬喰横山	56,144	56,089	相対式	17.3	17	3	○	○	○
浜町	10,665	10,782	島式	19.9	4	2	○	○	○
森下	36,587	37,507	島式	17.7	4	2	○	○	○
菊川	12,371	12,202	島式	17.4	5	2	○	○	○
住吉	20,809	20,768	相対式	14.9	5	2	○	○	○
西大島	13,851	13,847	島式	18.3	6	2	○	○	○
大島	16,000	15,661	島式2面	14.0	7	3	○	○	○
★ 東大島	15,210	15,214	相対式	10.1	4	5	○	○	○
★ 船堀	29,255	29,154	相対式	6.9	2	2	○	○	○
一之江	21,681	21,362	島式	18.7	6	3	○	○	○
瑞江	27,517	27,511	島式	12.3	4	1	○	○	○
篠崎	19,841	19,671	島式	13.2	3	2	○	○	○
本八幡	36,529	35,793	島式	21.0	11	1	○	○	○
新宿線計	740,380	740,380	島式13駅	平均 17.9	21駅 169基	21駅 54基	21駅	21駅	19駅
			相対式8駅						

大江戸線	一日平均乗降人員（人）		ホーム形式	深さ（m）	エスカレーター	エレベーター	1ルート の確保	車椅子使用者 対応トイレ	駅冷房
	乗車	降車							
新宿西口	28,000	25,643	島式	21.9	18	4	○	○	○
東新宿	19,017	18,322	島式	18.3	6	2	○	○	○
茗荷谷	14,310	14,539	島式	19.4	6	2	○	○	○
牛込柳町	10,098	9,856	島式	21.2	5	3	○	○	○
牛込神楽坂	6,650	7,036	島式	20.7	8	3	○	○	○
飯田橋	14,436	14,371	島式	32.1	14	2	○	○	○
春日	30,868	30,089	島式	22.3	14	2	○	○	○
本郷三丁目	10,866	11,177	島式	23.2	10	3	○	○	○
上野御徒町	28,101	28,529	島式	15.5	10	2	○	○	○
新御徒町	30,029	28,610	島式	15.5	13	3	○	○	○
蔵前	18,748	19,218	島式	17.9	8	2	○	○	○
両国	17,313	17,005	島式	15.2	10	3	○	○	○
森下	33,269	32,047	島式	22.5	9	2	○	○	○
清澄白河	20,171	20,556	島式2面	14.7	6	3	○	○	○
門前仲町	40,526	40,491	島式	18.5	8	2	○	○	○
月島	34,574	34,788	島式	15.0	5	2	○	○	○
勝どき	45,470	45,719	相対式	15.3	21	4	○	○	○
築地市場	11,066	12,215	島式	15.7	7	2	○	○	○
汐留	19,551	19,780	島式	17.8	5	3	○	○	○
大門	58,273	57,896	島式	22.8	19	2	○	○	○
赤羽橋	19,031	18,434	島式	21.0	8	2	○	○	○
麻布十番	16,094	15,935	島式	32.5	15	3	○	○	○
六本木	41,004	42,039	上下式	外回り32.8 内回り42.3	24	3	○	○	○
青山一丁目	34,840	34,094	島式	27.0	13	5	○	○	○
国立競技場	6,791	6,920	島式	28.4	21	4	○	○	○
代々木	16,334	16,536	島式	20.6	10	2	○	○	○
新宿	62,465	66,475	島式	36.6	16	2	○	○	○
都庁前	24,302	25,477	島式2面	18.5	19	3	○	○	○
西新宿五丁目	16,809	15,967	島式	23.3	7	2	○	○	○
中野坂上	20,091	20,378	島式	33.4	12	2	○	○	○
東中野	12,507	12,855	島式	33.8	10	2	○	○	○
中井	12,845	12,337	島式	35.1	8	2	○	○	○
落合南長崎	13,648	13,470	島式	17.0	5	2	○	○	○
新江古田	14,566	14,338	島式	12.5	5	2	○	○	○
練馬	39,272	39,051	島式	15.5	6	2	○	○	○
豊島岡	7,189	7,105	島式	19.5	8	2	○	○	○
練馬春日町	11,380	11,275	島式	18.7	10	2	○	○	○
光が丘	28,453	28,385	島式	11.9	4	2	○	○	○
大江戸線計	888,957	888,957	島式36駅	平均 22.2	38駅 403基	38駅 95基	38駅	38駅	38駅
			相対式1駅						
			上下式1駅						

都営バスは、主に東京都のJR山手線と荒川に囲まれた地域及び江戸川区の一部並びに多摩地域の一部で運行しており、令和6年度は一日平均約63万2千人のお客様にご利用いただきました。今後、少子高齢化の進行やそれに伴う生産年齢人口の減少等により、長期的には乗車数の大幅な増加が期待できないなど、厳しい状況が続くと見込まれます。

こうした中、都営バスでは、停留所上屋・ベンチの新設、建替えや運行情報のインターネット配信など、お客様の利便性向上を図っています。また、ノンステップバス等のひとにやさしい車両の導入、燃料電池バス等の環境にやさしい低公害車両の導入、地元自治体から要望を受けたバス路線の運行など、公営交通として社会的役割も担っています。

また、経営の効率化を図るため、一部の営業所（支所）において「管理の委託（注）」を実施しています。



都営バス(乗合)の概要

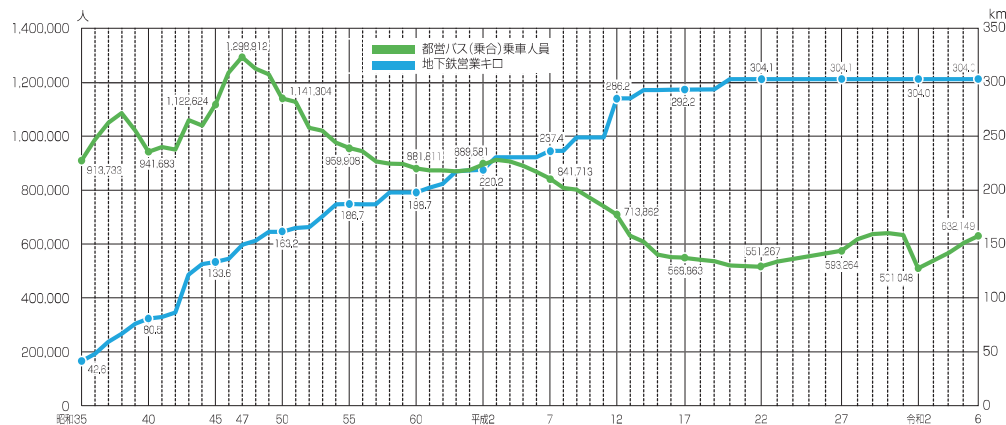
営業キロ	768.5km
系統数	126系統
系統総長	1,051.6km
平均系統長	8.3km
停留所数	1,544か所(ポール数3,827本)
車両数	1,447両 ^{※1}
平均定員	76人
平均時速	10.5km/h ^{※2}
営業所数	12か所 他支所7か所

※1 江東区コミュニティバス(しおがせ)を除く。
※2 令和6年度の平均

令和7年4月1日現在

(注)「管理の委託」とは、道路運送法に基づき、交通局が路線や運行ダイヤ、運賃の決定権を留保したまま、車両、営業所施設等を貸し、運転業務、運行管理業務、車両整備業務を一体として他の事業者に委託することです。

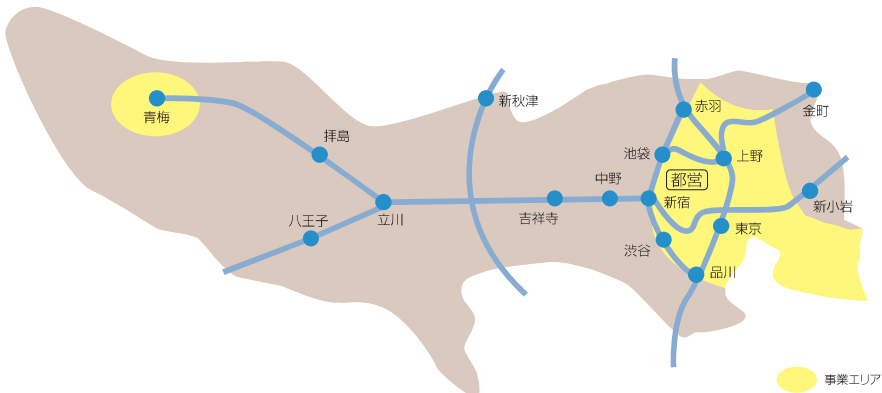
地下鉄営業キロ^(注)と都営バス(乗合)乗車人員の推移(一日平均)



(注)「地下鉄営業キロ」は都営地下鉄と東京メトロの合計です。

都営バスの主な事業エリア

(注)道路運送法の需給調整規制(事業エリア)は平成14年2月に廃止されています。



〈安全・安心の確保〉

◆定期点検整備と日常点検◆

車両の定期点検整備のほか、毎日の運行前に日常点検を行っています。



▲乗務員による運行前の点検▲



▲営業所・自動車工場での整備▲



◆音声無線の導入◆

無線装置を全ての車両及び営業所等に装備し、運行管理や緊急時の連絡に活用しています。



▲IP無線(車載機)



▲IP無線(本局)

◆テロ対策・防犯対策◆

バスターミナルでの警戒や起終点での車内点検を徹底するとともに、テロ情報に対する警戒・緊急連絡体制を定めて対応しています。また、バスジャックなどの不測の事態が発生した場合、緊急事態を周囲に知らせるSOS電光表示装置を導入しています。



▲SOS電光表示装置

◆酒気帯び出勤防止◆

始業・終業点呼等にアルコール検査を実施するなど、酒気帯び出勤防止について、様々な取組を行っています。

アルコール検査▲



◆各種訓練◆

事故・災害等の異常時を想定した情報伝達訓練を毎年実施しているほか、関係機関と連携し、テロ対策訓練や消防訓練等を随時実施しています。



▲情報伝達訓練の様子▲



◆事故防止研修の充実◆

各営業所において、四半期ごとに乗務員を対象とした安全研修を実施しています。この研修では、座学だけでなく、バスの実車を用いるなど、乗務員が実際に体験する実技研修を取り入れています。

▲安全研修(座学)



◆バス運転訓練車の活用◆

バス運転訓練車は、運転手の視線を追跡・記録するアイマーカーコーダーや車内の揺れを計測する加速度センサー、前方や左側方の状況を記録する距離計やカメラ、乗客の車内移動を確認する安全確認装置などを搭載しています。これにより、実際の走行状況を記録し、乗務員は走行後ただちに客観的なデータを用いながら指導を受けることができます。



▲運転訓練車



▲運転訓練車内の様子

◆ドライブレコーダーの活用◆

全車にドライブレコーダーを設置しています。記録された映像とデータを活用して、事故の原因を分析するとともに、乗務員の安全教育を実施して安全意識の向上を図っています。

◆交通安全教室の実施◆

各営業所において、地元の警察署と連携して、高齢者や小学生等を対象とした交通安全教室を実施し、バス車内における転倒や自転車との接触などの事故防止の啓発に努めています。



▲交通安全教室

「輸送サービスの充実」

◆PASMO(パスモ)◆

都営バス全路線でPASMOがご利用いただけます。(PASMOについてはP.8を参照)

PASMOには、都営バスIC定期券、都営バスIC一日乗車券の発売が可能です。また、モバイルPASMO又はApple PayのPASMOのご利用により、窓口においていただくことなく、都営バスIC定期券をモバイル端末(スマートフォン)に付加することもできます。



▲PASMO対応料金機



▲PASMO

◆ToKoPo(トコポ)◆

PASMOを活用したポイントサービス「ToKoPo(トコポ)」が利用いただけます。(「ToKoPo(トコポ)」については、P.8を参照)

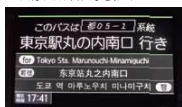
◆TOEISマート定期券予約◆

都営バスの定期購入にあたっては、「TOEISマート定期券予約」をご利用いただけます。(「TOEISマート定期券予約」についてはP.8を参照)

◆次停留所名表示装置の更新◆

バス車内前方に設置されている次停留所名表示装置にフルカラー液晶ディスプレイを採用し、情報案内の充実を図っています。平成29年度からは、車内後方からも見やすくなるため、燃料電池バスとフルフラットバスの車内中央の天井にモニターを設置しました。さらに、令和4年度からは、ディーゼルバスを含めて更新する車両に同様のモニターを設置することとし、令和7年4月1日現在、352両に導入しています。

▼次停留所名表示装置▼



(車内前方)



(車内中央天井)

◆車内デジタルサイネージによる情報発信◆

バス車内にデジタルサイネージを設置し、便利な乗車券のご案内や鉄道運行情報、天気予報やニュースなど、多彩な情報発信を行っています。令和7年4月1日現在、1,000両に設置しています。



▲車内デジタルサイネージ

◆停留所の利便性の向上◆

お客様が停留所でバスを快適にお待ちいただけるよう、停留所の利便性の向上に取り組んでいます。

◆バス情報表示装置

バス車両の停留所への接近状況、乗車までの待ち時間、主要停留所までの所要時間など、多彩な情報をお客様に提供しています。

令和7年4月1日現在、189基を設置しています。



▲バス情報表示装置

◆簡易型バス接近表示装置

バス停留所の標識柱に、低コストで設置できる簡易型バス接近表示装置を設置しています。令和7年4月1日現在、760基を設置しています。

また、平成28年度には、一部の接近表示装置を液晶型とし、英語による接近案内を開始しました。



▲液晶型接近表示装置

◆停留所上屋・ベンチの新設及び建替え

一定の歩道幅員があるなどの設置可能な場所に、上屋及びベンチの新設や建替えを行っています。現在は景観に配慮したデザインで、雨風よけの強化ガラスが付いた上屋を設置しており、お客様が快適にバスをお待ちいただけるよう環境整備を進めています。また、広告付きの上屋はその広告料収入を上屋及びベンチの設置や維持管理の経費に充てることで、整備を促進しています。



▲上屋



▲広告付き上屋

◆バス案内用デジタルサイネージによる情報発信◆

都営地下鉄の改札口付近やバスターミナルにデジタルサイネージを設置し、運行情報等を多言語で案内しています。デジタルサイネージの特性を活かし、最新の運行状況を表示するとともに、タッチ操作により路線図を拡大して見やすく表示したり、QRコードにより手元のスマートフォンにのりば案内を表示させることができます。令和7年4月1日現在、24基設置しています。



▲バス案内用デジタルサイネージ

◆運行情報の配信◆

時刻表や停留所へのバス接近情報等を、スマートフォン・携帯電話やパソコンからリアルタイムで確認できるサービスを提供しています。



▲トップページ

▲系統運行状況

◆バス路線の利便性向上◆

地域の実情やお客様のニーズに合わせた運行ルートやダイヤの見直しを適宜行い、利便性や効率性の向上を図っています。

また、バス専用レーン・優先レーンの設定や信号サイクルの見直しなど、関係機関に要請しながら、路線バスの走行環境を改善し、定時運行の確保を図っています。



▲バス専用レーン

◆貸切バス事業◆

学校行事や職場旅行などに利用できる観光バスを3両所有しています。3両全てが車いすに乗ったまま乗車することができるリフト付き観光バスです。

また、路線バスの車両を使用した貸切も行っており、各種イベントの送迎などにご利用いただいています。



▲リフト付き観光バス

都バス運行情報サービスURL <https://tobus.jp/>



〈ひとにやさしい都営バス〉

◆ひとにやさしい車両◆

平成11年度から更新する車両のノンステップ化を進め、平成24年度末に全ての車両をノンステップバス(注)としました。さらにより一層のバリアフリーを追求するため車内後方の通路段差を解消したフルフラットバスを平成30年12月25日に運行開始しました。これらのバスには、車いすスペースも確保し、スロープを利用すれば車いすをご使用のお客様もより容易にご乗車いただけます。

(注)ノンステップバスとは、どなたでも容易に乗り降りできるよう、床面高さを約30cmとし、ステップをなくしたバスです。



▲フルフラットバスの車内

ひとにやさしい車両導入状況

令和7年4月1日現在

	導入開始	内 容	車 両 数
ノンステップバス	H9.3	乗降口のステップをなくした、どなたでも乗り降りしやすい車両	1,447 ^{※1}
フルフラットバス	H30.12	車両後方の通路にある段差を解消した車両	(29) ^{※2}

※1江東区コミュニティバス「しおかぜ」を除く。
※2()の数は、車両数の内数



▲フルフラットバス



▲車いすスロープ

◆AEDの設置◆

お客様が急に心停止状態等になられた場合に対応するため、全営業所及び主要バスターミナル等にAED(自動体外式除細動器)を設置しています。

また、全ての乗務員が救命救急講習を受講しています。



▲AED



▲救命救急AED講習

◆ベビーカー・車いすでのご利用◆

車内には、ベビーカーや車いすを使用されているお客様に、安全に、安心してご利用いただくため、補助ベルト及び固定ベルトを搭載しています。

二人乗りベビーカーについてもお子様を乗せたまま都営バスの全路線にご乗車いただけます。



▲二人乗りベビーカーでのご利用

◆筆談具の設置◆

全車両に筆談具を、営業所には筆談器を設置し、お客様との円滑なコミュニケーションが図れるよう配慮しています。



▲筆談具によるコミュニケーション



▲筆談器(営業所設置)

〈環境にやさしい都営バス〉

◆燃料電池バス◆

燃料電池バスとは、燃料となる水素と酸素を化学反応させて作った電気により、モーターを駆動させ、走行するバスで、走行時には水しか排出しない環境にやさしいバスです。

都営バスでは燃料電池バスの導入に向け、平成27年7月、走行実証試験を行いました。平成28年度に2両を導入し、平成29年3月21日から、市販車では日本初となる営業運行を開始、令和7年4月1日現在、80両で運行しています。

燃料電池バスの更なる導入拡大に向けて、国内初となるバス営業所内水素ステーションを有明自動車営業所に整備し、令和7年4月1日から運用を開始しています。



▲燃料電池バス



▲水素ステーション

◆EVバス◆

EVバスとは、外部電源から車載のバッテリーに充電した電気によりモーターを駆動させて走行し、走行時に排出ガスを出さないバスです。

令和7年6月、北営業所においてEVバス2両をパイロット導入し、営業路線で運行することで、車両性能や効率的な充電方法等の検証を進めます。



▲EVバス

◆環境にやさしい車両◆

更新する車両の全てを最新の排出ガス規制に適合したノンステップバスとし、NOx、PM^(注)の削減に努めています。

(注) NOx 窒素酸化物、PM 粒子状物質

環境にやさしい車両導入状況

令和7年4月1日現在

	導入開始	内 容	車 両 数
アイドリング・ストップスタート装置付バス	H6.1	バスの停止・発進に合わせエンジンの自動停止・再スタートを行う	1,338
新長期規制バス	H17.11	平成17年 排出ガス規制(新長期規制)対応	36
新長期規制ハイブリッドバス	H19.10	平成17年 排出ガス規制(新長期規制)対応	14
ポスト新長期規制バス	H22.10	平成21年 排出ガス規制(ポスト新長期規制)対応	452
ポスト新長期規制ハイブリッドバス	H22.9	平成21年 排出ガス規制(ポスト新長期規制)対応	27
平成28年規制バス	H29.11	平成28年 排出ガス規制対応	838

※江東区コミュニティバス「しおかぜ」1両及び貸切登録車両5両を除く。

◆最新の排出ガス規制(平成28年規制)適合車の導入

最新の排出ガス規制(平成28年規制)に適合するバスの運行を平成29年11月から開始しました。以下の技術等で規制をクリアしています。

- ①燃料の高圧噴射による燃焼最適化技術
- ②DPFと尿素水による排出ガス後処理技術
- ③総合的な電子制御技術



▲平成28年規制適合車

◆ハイブリッド・ノンステップバスの導入

平成19年10月から運行を開始しました。

ハイブリッド・ノンステップバスは、バッテリー等を屋根に設置することで、ノンステップ化を実現しました。モーターによりエンジンの駆動力をアシストして低燃費であることから、CO₂の低減に寄与しています。

平成22年9月には、ポスト新長期規制に適合したハイブリッド・ノンステップバスの運行を開始しています。



▲ハイブリッド・ノンステップバス

◆環境(エコ)定期券制度◆

都営バスの通勤定期券をお持ちのお客様が、二親等以内の同居のご家族及びパートナーシップ宣誓制度で証明を受けている二親等以内のご家族に相当する同居の方と一緒に都営バスに乗車される場合、土・日・祝日等の適用日に限り、ご家族が割引運賃(大人100円・小児50円現金のみ)でご乗車いただける制度です。

東京さくらトラム(都電荒川線)

都電の歴史は、明治44年に東京市が東京鉄道株式会社から路面電車事業を買収し、東京市電気局として開始したときに遡ります。

都電には、かつて文字どおり“都民の足”として隆盛を誇った時代がありました。最盛期の昭和18年度には、一日平均193万人ものお客様が利用されました。系統も41系統を数え、都電が都内を縦横に走っていました。しかし、自動車交通量が増大していく流れの中で、軌道敷内への自動車乗り入れによる輸送効率の低下が顕著となり、昭和42年から昭和47年にかけて181kmもの路線の廃止を余儀なくされました。

現在では、路線の大部分が専用軌道であること、代替バスを運行できる道路がないこと、沿線住民等の強い存続要望があったことなどにより、三ノ輪橋～早稲田間を走る都電荒川線のみを運行しています。

営業キロはわずか12.2kmですが、令和6年度は一日平均約5万1千人のお客様にご利用いただき、地域に密着した交通機関として親しまれています。

都電荒川線の魅力を国内外に積極的にアピールし、更なる利用者の誘致、沿線地域の活性化に寄与していくため、外国人を含む観光客の方にも親しみやすい路線愛称を付けることとし、広く意見募集を行いました。その結果平成29年4月に愛称を「東京さくらトラム」に決定しました。



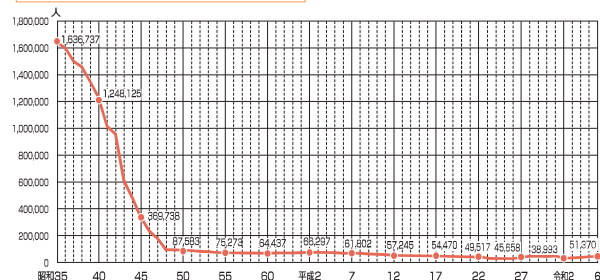
8900形車両▶

東京さくらトラム(都電荒川線)の概要

令和7年4月1日現在

線区	営業区間	三ノ輪橋～早稲田	
	営業キロ	12.2km(専用軌道部10.5km、併用軌道部1.7km)	
	停留場数	30か所	
車両	在籍車両数	33両	
	(内訳)	7700形	8両(定員62人)
		8500形	5両(定員65人)
		8800形	10両(定員61人)
		8900形	8両(定員62人)
		9000形	2両(定員64人)
規格	軌間	1,372mm	
	電気方式	直流600V	
運転	最短運転時間	3分00秒	
	表定速度	13.1km/h	
	最高速度	40.0km/h	
	運転所要時分	56分	

都電の乗車人員の推移(一日平均)



東京さくらトラム(都電荒川線)路線図



東京さくらトラム(都電荒川線) マスコット

とあらん



〈安全・安心の確保〉

◆定期検査と点検◆

車両、軌道、架線、信号、通信ケーブルなどの点検・整備を、定期的に行っています。



◀車庫での点検状況▶

◆ブレーキランプの設置◆

後方からの追突を避けるため、全車両にブレーキランプを設置しています。



▲ブレーキランプ

◆固定式ホーム柵の設置◆

停留場からの転落事故を防止し、お客様により安全にご利用いただけるよう、平成24年度から設置可能な全ての停留場に固定式ホーム柵を設置しています。



▲固定式ホーム柵

◆車載映像記録装置◆

車載映像記録装置を全車両に設置しています。記録された映像とデータを活用して事故の原因を分析するとともに乗務員の安全教育を実施しています。

◆運転手異常時電車停止装置の設置◆

運転手に体調異常が生じた場合に備えて、運転手異常時電車停止装置を設置しています。

◆各種訓練◆

各関係機関と連携し、消防訓練、テロ対処訓練など安全・安心の確保に向けた訓練を定期的に行っています。



▲テロ対処訓練

〈輸送サービスの充実〉

◆PASMO(パスモ)・ToKoPo(トコポ)◆

都電全車両でPASMOがご利用いただけます。(PASMOについてはP.8を参照)

PASMOには、都電IC定期券、都電IC一日乗車券の発売が可能です。

また、PASMOを活用したポイントサービス「ToKoPo(トコポ)」が利用いただけます。([「ToKoPo(トコポ)」については、P.8を参照])



▲PASMO対応料金機



▲PASMO

◆電車接近表示装置◆

全停留場に、電車接近表示装置を設置し、お客様の利便性の向上を図っています。



▲電車接近表示装置

◆デジタル一日乗車券◆

令和5年12月から、スタートアップ企業と共同で、都営交通初となる「都電デジタル一日乗車券」を期間限定で発売しました。また、令和7年4月1日からは、通年での発売を開始しました。



◆沿線地域の活性化◆

◆車両の導入

都電では平成19年5月及び平成21年1月に地域の観光振興にも役立てるよう、レトロ調の9000形を導入しました。また平成21年より景観に調和した優しさと親しみやすいデザインの8800形を導入、平成27年にはさらなる先進性と快適性、どなたでも乗りやすいユニバーサルデザインを取り入れた8900形を導入しました。8800形と8900形の塗色は沿線に咲き誇るバラの色をイメージしています。平成28年3月には7000形車体をリニューアルした、クラシックモダン調の7700形がデビューし、平成28年度末までに8両がそろいました。



▲ローズレッド色の8800形

◆地域の景観にマッチした停留場の整備

地元自治体や地域とも連携しながら、沿線の新たな観光スポットとして、三ノ輪橋、庚申塚の停留場を昭和30年代の雰囲気を活かした停留場に整備しました。都電荒川線の魅力向上や地域の活性化に役立っています。

◆都電おもいで広場

荒川電車営業所内に、かつて活躍した車両2両を展示する施設を平成19年5月に開設しました。

また、地域と連携したイベント等にも利用できるスペースも併設しました。(年末年始を除く土・日・祝日のみ開場。入場無料。)



▲都電おもいで広場

◆都電サポーター事業

都電の魅力向上と沿線地域の活性化に寄与するため、地元自治体や都電サポーター(地元で都電の応援・PRをしてくれる皆さん)との連携強化に努め、沿線のPRや都電の魅力を引き出す地域に密着したイベントなどを積極的に展開しています。

◆三ノ輪橋おもいで館

お客様の利便性向上と、地域と連携した沿線情報発信を目的として、平成30年10月21日に三ノ輪橋おもいで館を開設しました。都電をはじめ、都営交通及び沿線情報の案内、乗車券・グッズ等の販売、都電ゆかりの部品・資料の展示、各種案内冊子等の配布などを行っています。



▲三ノ輪橋おもいで館

〈ひとにやさしい都電〉

◆停留場のバリアフリー化◆

全ての停留場で、スロープや視覚障害者誘導用ブロックを設置するとともに、車両との段差を解消するため停留場をかさ上げしています。



▲スロープ

◆車両のバリアフリー化◆

フリースペースや、車いすをご利用になるお客様専用の「降車用押しボタン」を全車両に設置しています。



▲フリースペース

〈環境にやさしい都電〉

◆沿線の緑化◆

沿線の景観向上や環境負荷の低減を図るため、都電サポーターや地元自治体と協力・連携して、沿線の緑化に取り組んでいます。また、荒川車庫前停留場付近、大塚駅前停留場付近及び町屋駅前停留場付近では、軌道を緑化し、植え付けた植物の生育状況について経過観察を行っています。



沿線のバラと9000形▶

◆省エネルギー車両◆

全ての車両で、省エネルギー効果の高いVVVF制御を採用しています。また車内照明にLEDを導入することにより、省エネ化、環境負荷の低減及び長寿命化を進めています。

◆環境(エコ)定期券制度◆

都電の通勤定期券をお持ちのお客様が、同伴する同居のご家族または、パートナーシップ宣誓制度で証明を受けている二親等以内のご家族に相当する同居の方と一緒にご乗車される場合、土・日・祝日等の適用日に限り、ご家族が割引運賃(大人100円・小児50円現金のみ)でご乗車いただける制度です。

日暮里・舎人ライナー

日暮里・舎人ライナーは、荒川区の日暮里と足立区の舎人地区9.7kmを結ぶ新交通システムです。

建設に際しては、インフラ部(支柱、軌道桁、駅の主要構造物など)を、ルートに当たる尾久橋通りの整備と併せて東京都建設局が担当、インフラ外部(車両や電気施設等)を、東京都地下鉄建設局(注)が担当し、平成9年12月に工事着手しました。交通局は、平成19年10月1日に国から軌道法に基づく軌道事業譲渡許可を受けて運営することとし、平成20年3月30日に開業しました。

令和6年度は一日平均約9万5千人のお客様にご利用いただきました。

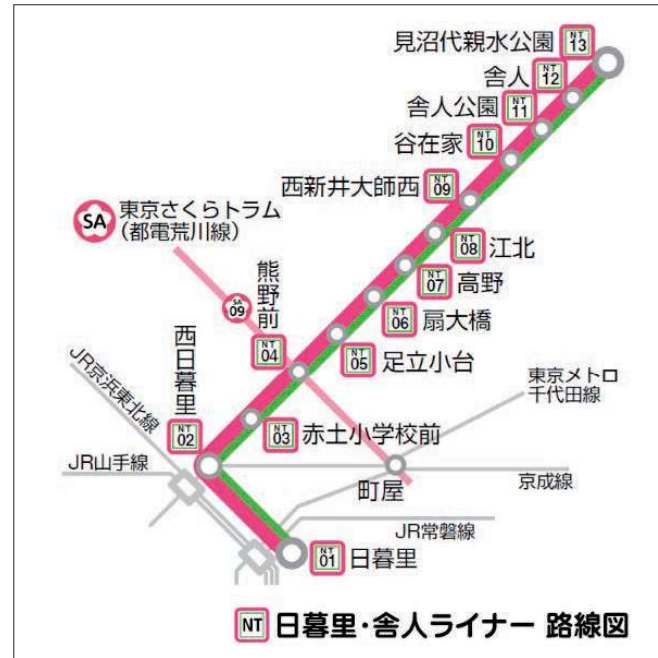
この路線の開業により、沿線地域の交通アクセスは飛躍的に向上し、今後も道路渋滞の緩和や沿線地域の活性化が期待されています。

(注)都営地下鉄大江戸線環状部の建設を行った東京都の第三セクター



▲330形車両

日暮里・舎人ライナー路線図

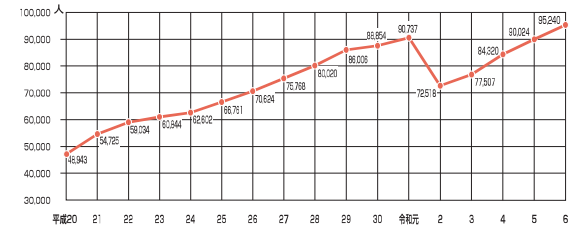


日暮里・舎人ライナーの概要

令和7年4月1日現在

線区	営業区間	日暮里(荒川区)～見沼代親水公園(足立区)
	営業キロ	9.7 km(全線高架複線)
車両	駅数	13駅
	輸送システム	側方案内軌条式新交通システム(コンピュータ制御による自動運転)
	(内 駅)	300形・40両(5両×8編成)
		320形・5両(5両×1編成)
規格	定員	245人/編成(300形) 259人/編成(320形) 262人/編成(330形)
	電気方式	三相交流600V
運転	最短運転経路	3分14秒
	表定速度	上り27.7km/h 下り27.9km/h
	最高速度	60km/h
	運転所要時間	約20分

日暮里・舎人ライナーの乗車人員の推移(一日平均)



令和6年度一日平均乗降人員 単位:人

駅名	乗車	降車
日暮里	27,809	27,601
西日暮里	16,213	17,267
赤土小学校前	2,888	2,742
熊野前	4,781	4,609
足立小台	1,847	1,838
扇大橋	5,370	5,293
高野	3,350	3,284
江北	6,508	6,450
西新井大師西	6,215	6,190
谷在家	5,582	5,482
舎人公園	2,888	2,841
舎人	4,786	4,756
見沼代親水公園	7,003	6,886
日暮里・舎人ライナー計	95,241	95,241

(注)駅別乗降人員の一日平均は、端数未調整である。

〈安全・安心の確保〉

◆列車運行管理と駅構内の監視◆

日暮里・舎人ライナーはコンピュータ制御による自動運転を行っています。列車の運行管理や駅の安全監視などは全て指令室で係員が行っています。



▲指令室

◆ATO・ATC

安全な運行を確保するための保安装置として、「出発～次駅での停止～ドアの開閉」をコンピュータ制御で行う機能を備えた自動列車運転装置(ATO: Automatic Train Operation)を導入しています。

また、制限速度を上回ったときに自動的にブレーキをかける自動列車制御装置(ATC: Automatic Train Control)も導入しています。

◆安全確保のための保安設備◆

◆非常通報器

車内で異常が発生したときにお客様から係員に通報できるよう、全ての車両に非常通報器を設置しています。



▲非常通報器と非常停止ボタン

◆非常停止ボタン

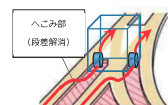
非常時にお客様が列車を停止させることができるよう、全ての車両に非常停止ボタンを設置しています。

◆車内放送装置◆

非常時にお客様に音声情報を伝達できるよう、すべての車両に放送装置を設置しています(通常時は停車駅や乗り換えのご案内等を自動で放送しています)。

◆地震発生時の被害軽減策◆

脱輪のおそれがある走行路の分岐部において、「へこみ部」の段差を解消する部材を設置しています。



▲段差解消の一例(イメージ)

◆ホームでの安全対策◆

◆ホームドア

お客様の列車との接触や軌道への転落防止対策及び防風対策として、全駅にホームドアを設置しています。



▲ホームドアと視覚障害者誘導用ブロック

◆視覚障害者誘導用ブロック

目の不自由なお客様のための視覚障害者誘導用ブロックを全駅に設置しています。

◆自動火災報知設備ほか

駅構内で火災が発生した場合に備え、自動火災報知設備、消火器のほか、消防隊が消防ポンプ車と連結し、消火活動ができるよう、連結送水管設備を全駅に設置しています。



▲自動火災報知設備、消火器、連結送水管設備

◆非常扉

火災等の非常時には、ホーム階から二方向避難として、階段とともにホーム端部にある非常扉から避難するルートを全駅に確保しています。



▲非常扉

◆各種訓練◆

大規模地震などの異常時の際、的確な避難誘導・復旧作業を行えるよう、警察・消防と連携し各種訓練を実施しています。



▲避難誘導訓練



▲異常時総合訓練

◆テロ対策・防犯対策◆

迷惑行為や痴漢等犯罪の未然防止、テロ対策などセキュリティ強化を図るため、車両の更新に合わせて車内への防犯カメラの設置を進めています。



330形防犯カメラ▶

◆雪害対策◆

◆ロードヒーターほか

走行路面の雪害対策として、勾配の急な路面や車庫からの出庫線の一部にロードヒーターを設置しています。また、状況に応じて凍結防止剤や融雪剤を散布しています。

◆除雪用ブラシほか

車両の雪害対策として、全編成に除雪用ブラシを装着しています。また、平成29年度から霜取り装置の設置を開始し、現在は合計6編成に設置しています。

〈輸送サービスの充実〉

◆PASMO(パスモ)◆

日暮里・舎人ライナー全駅でPASMOがご利用いただけます。(PASMOについてはP.8を参照) PASMO対応自動改札機▶



◆ToKoPo(トコポ)◆

PASMOを活用したポイントサービス「ToKoPo(トコポ)」が利用いただけます。(「ToKoPo(トコポ)」については、P.8を参照)

◆TOEIスマート定期券予約◆

日暮里・舎人ライナーの定期購入にあたっては、「TOEIスマート定期券予約」をご利用いただけます。(「TOEIスマート定期券予約」についてはP.8を参照)

◆駅のバリアフリー化◆

◆エレベーター・エスカレーター

全駅に「地上と改札階」「改札階とホーム階」を結びエレベーター及び用エスカレーターを設置しています(日暮里・西日暮里・熊野前駅の一部には、下り用エスカレーターを併設)。



▲エレベーター・エスカレーター

◆トイレ

全駅にご高齢の方、お体の不自由な方や乳幼児をお連れの方などが利用しやすいよう、スペースを広くし、手すり、おむつ交換台、オストメイトの洗浄器具などを備えたトイレを設置しています。



▲車椅子使用者対応トイレ

◆カメラ付インターホン

聴覚に障害のあるお客様への対応として、指令区の係員と筆談ができるよう、令和2年2月から無人駅にカメラ及びモニター付きインターホンを設置しています。カメラ付インターホン▶



◆AEDの設置◆

お客様が急に心停止状態等になられた場合に対応するため、全駅にAED(自動体外式除細動器)を設置しています。また、全ての駅係員が救命救急講習を受講しています。



▲AED(赤土小学校前駅)

◆列車運行情報表示装置◆

全駅の改札口付近にディスプレイを設置し、列車の遅れ等の運行情報をすみやかに提供しています。改札口ディスプレイ▶



◆案内表示器◆

列車の行先や時刻、接近情報のご案内などを表示しています。



案内表示器▶

◆車両のバリアフリー化◆

◆フリースペース

車いすをご利用のお客様、ベビーカーをご利用のお客様、大きなお荷物をお持ちのお客様等にご利用いただけるフリースペースを全ての編成に設置しています。一部の編成は全車にフリースペースを設置しています。



▲フリースペース

◆車内点字シール

全ての車両の各ドアに、号車及びドア番号を示す車内点字シールを貼付しています。



▲車内点字シール

◆車内表示器

お客様に文字情報を伝達できるよう、全ての車両にLCDやLEDによる車内表示器を設置しています。



▲LCD車内表示器

◆低い吊り手

一部の車両に「低い吊り手」を設置しています。



▲低い吊り手

〈環境にやさしい日暮里・舎人ライナー〉

◆電力回生システム◆

列車の走行に使うモーターをブレーキ時に発電機として動作させ、発電した電力を電車線に戻して他の列車の走行に利用するほか、変電所に送電して駅の照明などに利用する「電力回生システム」を全ての列車に装備しています。

◆省エネルギー車両◆

全ての車両で、省エネルギー効果の高いVVVF制御を採用しています。



▲330形車両

関連事業

関連事業とは、自動車運送事業、高速電車事業等の本来事業の経営基盤の強化に寄与し、質の高いサービスを提供するために、土地、建物などの資産の有効活用や広告事業を展開し、長期的に安定した収入を確保する事業です。

このうち、資産の有効活用としては、土地・建物・鉄道高架下の貸し付け、駅構内での店舗営業・自動販売機の設置などを行っています。また広告事業では、駅施設や地下鉄、バス、都電、日暮里・舎人ライナーの車両を主な媒体として、広告料収入を得ています。

さらに、通信サービスでは光ファイバーケーブル設備や携帯電話・WiMAXの基地局を設置するため、地下鉄駅構内や、すい道内等を通信事業者等に提供し、設置料・使用料を得ています。

◆不動産事業◆

不動産の有効活用として土地及び建物の貸付を行い、賃貸料収入を得ています。土地(鉄道高架下を含む。)については、ビル・店舗・駐車場の用地として、建物についてはテナントに貸し付け、それぞれ活用しています。

オフィスビル (目黒セントラルスクエア)▶



▲東京交通会館



▲有楽町駅ビル(イトシア)



▲大塚支所跡地



▲駐車場 (中延駅4出入口横)



▲駐輪場(大島駅エレベーター横)



▲西台駅付近高架下

◆広告事業◆

車内、車体、駅構内などの交通広告媒体を販売し、広告料収入を得ています。

車内のポスターやステッカー、駅バスターポスターなどの一般的な媒体のほか、ラッピングバスや広告付きバス停留所、車内ビジョン、駅構内デジタルサイネージなど注目度と訴求効果の高い媒体など、様々な広告を展開しています。



▲ラッピングバス (FCバス)



▲広告付きバス停留所



▲駅構内デジタルサイネージ (日比谷駅)



▲地下鉄車内の液晶モニター広告 (チカッ都ビジョン)

◆駅構内営業◆

駅構内に店舗や自動販売機、期間限定ショップ、金融機関ATM、宅配受取ロッカーなど様々な利便施設を設けているほか、大江戸線 上野御徒町駅ほか2駅にベビーカーレンタルサービスや育児用品自動販売機を、また、三田線日比谷駅ほか2駅にワークブースを設置するなど子育て応援や多様な働き方に対応したサービスを展開しています。

このほか、PASMO電子マネーが使用できる店舗の拡大等を通じて、お客様の利便性の向上と収益確保を図っています。



▲駅構内店舗 (神保町駅)



▲期間限定ショップ(TOETSU SELECTION) (本八幡駅)



▲ワークブース (日比谷駅)



▲線シェアリングサービス レンタルポット (高島平駅)

▲宅配受取ロッカー (日暮里駅)

▲モバイルバッテリー レンタルスタンド (神保町駅)



▲外貨両替機 (上野御徒町駅) ▲コンビニエンスストア (小川町駅)

◆通信サービス◆

地下鉄全線 (目黒駅〜三田駅間を除く。)に、光ファイバーケーブルを敷設し、通信事業者への賃貸事業を行っています。

また、地下鉄駅構内では、携帯電話・WiMAXの基地局の設置スペースを通信事業者に提供することで、駅構内及び駅間において各サービスを提供しています。

さらに、令和5年4月から大江戸線都庁前駅構内において携帯電話5Gサービスを提供しています。



▲光ファイバー工事



▲5G用携帯電話アンテナ (都庁前駅)

◆商品化許諾・撮影許諾◆

玩具などの商品化や、駅構内などでの映画やテレビドラマ、雑誌等の撮影を許諾し、都営交通のPRを行うとともに許諾料を得ています。



▲ロイヤリティ商品



▲テレビドラマ撮影風景

◆社会貢献への取組◆

公営交通事業者としての責任と役割を果たすため、関連事業においても様々な社会貢献に取り組んでいます。

不動産の有効活用では、平成29年度当初に、用賀職員寮跡地において保育所等を併設されたサービス付き高齢者向け住宅が開業したほか、令和5年4月には、都営バス大塚支所跡地において保育所等を併設した大学が開設しました。また、都の待機児童解消に向けた取組「とうきょう保育ほうれんそう」に交通局も参画し、区市町村等へ局有地の情報提供を行っています。

駅構内営業では、地元区との連携により、障害のある方が働く店舗を4店舗設置し、障害のある方の雇用機会の拡大を支援しています。また、沿線地域の活性化の取組として、都営交通沿線にある店舗等で販売している食品・飲料・雑貨や沿線企業とのコラボ商品を取り揃えた沿線セレクトショップ「とえいろ」を令和6年5月、新宿線市ヶ谷駅構内にオープンしました。



▲保育所等を併設したサービス付き高齢者向け住宅 (用賀職員寮跡地)



▲障害者が働く店舗 (高島平駅)



▲沿線セレクトショップ「とえいろ」 (市ヶ谷駅)

電気事業(発電)

電気事業の歴史は、東京市が明治44年8月に軌道事業(路面電車)と火力発電による電気供給事業を行う電気局(交通局の前身)を創設したときに始まります。

現在は、多摩川の流水を利用した水力発電による電気事業を運営しており、管理している水力発電所は、多摩川第一発電所及び白丸発電所(西多摩郡奥多摩町)並びに多摩川第三発電所(青梅市)の3か所です。最大出力の合計は3万6千5百キロワットで、一年間に発電する電力量は概ね一般家庭3万5千世帯の使用量に相当しています。

この電気はCO₂フリーであり、近年その価値が高まっています。こうした「東京産水力発電の環境価値」に着目した売電方法を、令和3年4月から導入しました。公算型プロポーザルにより決定した小売電気事業者を通じて、都内需要家に供給するとともに、交通局の再生可能エネルギー導入の率先行動として、都営バスの全営業所でこの電気を使用しています。加えて、令和6年4月からは、東京さくらトラム(都電荒川線)を100%東京産水力発電の電気で運行しています。

令和3年11月には、白丸発電所・白丸調整池ダムに隣接する場所に東京都交通局再生可能エネルギーPR館(愛称:「エコっと白丸」)を開館しました。館内では、ジオラマシアターや壁面展示により交通局の水力発電の仕組みなどをわかりやすく伝えとともに、奥多摩町の観光スポット等を紹介するコーナーを設け、地域の観光振興にも貢献しています。

また近傍には、都内初となる水力発電所の電気を活用した電気自動車(EV)用急速充電設備を設置し、令和7年4月から運用を開始しています。

なお、多摩川第一発電所及び多摩川第三発電所については、運転開始から60年以上が経過することから、大規模更新を計画しています。



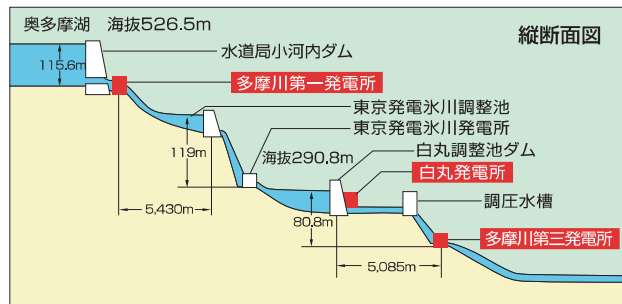
▲多摩川第一発電所



▲多摩川第三発電所



▲再生可能エネルギーPR館「エコっと白丸」



モノレール

上野動物園の東園と西園を結ぶモノレールは、将来の新しい都市交通機関として実験的に建設した我が国で最初のモノレールです。

昭和32年の開業以来、交通局の施設として鉄道事業法に基づき運営してきましたが、平成12年に上野動物園を所管する東京都建設局に施設を無償で譲渡し、交通局がその施設を借り受けて管理運営をすることとなりました。

車両の経年劣化のため、令和元年11月から運行を休止し、令和5年12月27日をもって廃止となりました。

安全マネジメントの充実

◆安全管理規程◆

平成18年10月、「運輸の安全性の向上のための鉄道事業法等の一部を改正する法律」の施行に基づき、輸送の安全を確保するための事業の運営方針に関する事項等を定めたもので、安全統括管理者を中心とした安全管理の責任体制及びその管理実施方法等を規定した「鉄・軌道事業安全管理規程」「自動車事業安全管理規程」をそれぞれ制定しました。

◆安全方針・安全重点施策◆

安全管理規程に基づき、安全に係る基本的な姿勢を示した「安全方針」を平成18年12月に制定しました。平成28年4月、改めて安全に対する姿勢を明確にし、職員の安全意識の向上を図るため、改定しました。交通局経営方針の冒頭にある「都民やお客様の信頼に応えるため、安全・安心を最優先し、全職員が一丸となって、災害に強く、事故のない都営交通」の実現を目指して、4つの具体的な取組を「安全方針」として定めています。

この安全方針を具体化した「安全重点施策」を毎年度策定し、これを着実に実施することにより、安全の確保を図っています。

安全方針

私たちは、都民やお客様の信頼に応えるため、安全・安心を最優先し、全職員が一丸となって、災害に強く、事故のない都営交通を実現します。

このため

- 決められたルールを確実に守り、厳正に職務を遂行します。
- 常に情報を共有し、問題意識を持って職務に当たり、事故の芽を確実に摘み取ります。
- 安全・安心な車両、設備などを提供します。
- 安全を守るための取組を絶えず見直し、改善・実行します。

◆安全管理体制の見直し◆

輸送の安全確保に関する重点施策などの計画を策定し、これを着実に実行するとともに、安全マネジメント内部監査の結果などを踏まえて検証を行い、継続的な改善を行うことにより、PDCAサイクルを適切に機能させ、経営トップから事業所まで一丸となった安全管理体制の強化に取り組んでいます。

◆安全マネジメント内部監査

年に1回、安全管理に係る取組が、安全管理規程等に定めるルールどおりに実施されているかを確認するとともに、そうした取組の見直し・改善状況をチェックしています。

◆マネジメントレビュー

安全マネジメント内部監査の指摘項目、安全重点施策の実施状況及び安全統括管理者の意見等をもとにしたマネジメントレビューを行い、次年度の計画策定に反映させています。



◆「都営交通 安全の日」◆

お客様の安全・安心の確保を最優先にする姿勢と決意を示す取組として、平成19年から、毎年6月13日を「都営交通 安全の日」に決めました。この日は、浅草線浅草橋駅でのドア挟みによる死亡事故(平成6年)、都電荒川線での車両衝突事故(平成18年)という2つの重大事故が発生した、交通局職員が決して忘れてはならない日です。

安全の日を中心に、安全標語の募集、意見交換会、巡回や点検強化などを実施しています。

これからも二度とこのような事故を引き起こさないために、全職員が一丸となって安全輸送の確保に全力で取り組んでいます。



▲事業所巡回▲



▲事故防止研修

▲「安全の誓い」の碑の清掃

◆「事故から学ぶ展示室」◆

安全意識の高い職場風土を作るため、過去の事故事例のパネルや映像などの展示室を交通局研修所に設置しています。

(注)本施設は職員研修用のため、一般には公開しておりません。



▲事故から学ぶ展示室

環境対策の推進

◆環境マネジメントシステム◆

平成12年度から環境マネジメントシステム(EMS:Environment Management System)を取り入れ、環境対策の推進に取り組んでいます。

環境方針に基づいて毎年度、環境目標を設定し(plan)、目標の達成に努め(do)、その結果を検証して(check)、次年度の目標に反映させる(action)ことで、環境に配慮した事業運営を行っています。

環境方針の基本理念の下、交通事業者としての社会的役割を認識し、事業における環境への負荷を可能な限り低減するなど、積極的に取り組んでいます。

東京都交通局環境方針

基本理念

東京都交通局は環境に配慮した事業運営を行い、環境にやさしい公共交通の利用促進及び活性化をめざします。

都営交通は、東京の都市生活、都市活動を支える基盤的都市施設として、東京の公共交通の重要な一翼を担っています。交通事業者として、その重要性を認識し、事業における環境への負荷を可能な限り低減するなど、積極的に行動します。また、地下鉄、バス、都電などは交通機関のなかで環境にやさしいのりものであることから、東京都の交通需要マネジメント(TDM)施策に協力し、公共交通への誘導並びに交通ネットワーク整備・拡充による公共交通の利用促進及び活性化をめざします。

基本方針

- 1 環境関連の法規制等を遵守し、資源・エネルギーの適正管理を行い、環境の保全に努めます。
- 2 環境目的及び環境目標を設定し、その達成に努めます。そして、実施状況を定期的に調査し、見直すとともに継続的改善及び汚染の予防に努めます。
- 3 環境改善に主体的に行動できるよう、職員の育成を図ります。
- 4 環境にやさしい公共交通の利用を呼びかけていきます。

◆環境にやさしい施設の整備◆

地球温暖化対策として、局施設の整備に当たっては、照明のLED化や高効率なエスカレーター等を導入し、省エネルギー化を図ることでCO₂排出量を削減するなど、環境に配慮した施設の整備を行っています。



▲照明のLED化



▲エスカレーターの改修・更新による省エネ化

◆環境対策の情報発信◆

ポスターや車内液晶モニター、ホームページなどを活用して、交通局の環境対策について、お客様へ情報を発信しています。



▲PR動画



▲駅貼りポスター

お客様サービスの推進

◆サービス推進本部◆

平成3年3月に策定した「東京都交通局長期経営基本方針」において、「お客様本位のサービスの創造に挑戦する先進的企業を目指す」ことを経営理念として掲げました。この理念の実現に向け、具体的なサービス施策を検討し、その推進を図るため、平成4年2月に局長を本部長とする「サービス推進本部」を設置し、お客様満足度の向上に取り組んでいます。

◆サービス推進チームの活動◆

各職場の実態に応じたサービス推進活動を具体的に実践していくため、各事業所等に「サービス推進チーム」を設置し、より便利で快適なサービスの提供を目指して、さまざまな取組を行っています。

また、「サービス推進強化月間」を設け、各チームがサービス推進運動を強化するとともに、本部と各職場が一丸となってサービス推進運動に積極的に取り組んでいます。



▲強化月間中に着用する「ワッペン」

◆都営交通モニター制度◆

お客様視点のサービスを展開していくため、平成18年度から都営交通モニター制度を導入しています。約450名のモニターの皆様は、局職員のお客様対応、駅や車両、バス停の状況等について、満足度を4段階で評価していただいています。

こうして得られた評価や意見及び提案は、局事業に反映させ、より一層のサービス向上に努めています。

◆お客様へのマナーの呼びかけ◆

都営交通をより快適にご利用いただくために、駆け込み乗車の防止や優先席の適正な利用などのマナーポスター及び動画を作成し、公共交通利用時におけるマナーへのご理解とご協力をお願いしています。



▲マナーポスター(駆け込み乗車防止)

◆マナーブックの配布◆

小学生の皆さんに交通マナーを知っていただくため、「楽しく乗ろう！交通マナーブック」を作成し、都内の全ての小学校に配布しており、授業等で活用していただいています。



マナーブック▶

◆組織風土づくり◆

職場の実態や課題等を踏まえ、各サービス推進チームが中心となり、お客様の立場で自ら考える組織風土づくりに取り組んでいます。

また、「サービス推進発表会」を開催するなど、お客様本位のサービスについて考えながら、組織横断的に課題解決に挑む組織風土づくりに取り組んでいます。



▲サービス推進発表会

◆お客様の声の活用◆

都営交通をご利用いただいているお客様の声(ご意見・ご要望等)については、交通局全体の情報として活かし、より一層のサービス向上を図るため、平成25年4月に開設した都営交通お客様センターにおいて集約しています。

その内容や措置状況を検討して、サービス推進本部会議に報告するとともに、交通局報等に掲載して全職員に周知し、サービスの向上に役立てています。

また、交通局のホームページでも、専用フォームで、お客様の声を受け付けています。令和6年度にお客様から寄せられたご意見・ご要望等は23,657件でした。

◆各種マーク普及への協力◆

マタニティマークを配布するとともに、車内ステッカー等によるマークの普及促進に努めています。

ヘルプマーク(援助や配慮を必要としていることが外見から分らない方々のためのマーク)についても同様に普及に協力しています。



◀マタニティマーク



◀ヘルプマーク

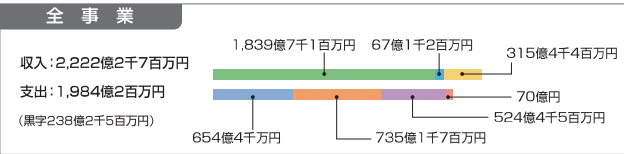
経営状況

令和6年度は、都営地下鉄、都営バス、東京さくらトラム（都電荒川線）、日暮里・舎人ライナーの4事業の合計で、年間12億4,830万3千人（一日平均342万人）のお客様にご利用いただきました。また、電気事業は年間128,599MWhの電気を供給しました。

これにより、全事業の営業収益は2,002億1千1百万円、その他の収入も含めた経常収益は2,222億2千7百万円となりました。一方、経常費用は1,984億2百万円となり、この結果、全事業の経常損益は238億2千5百万円の黒字となりました。

令和6年度決算事業別経常収支内訳(税抜)

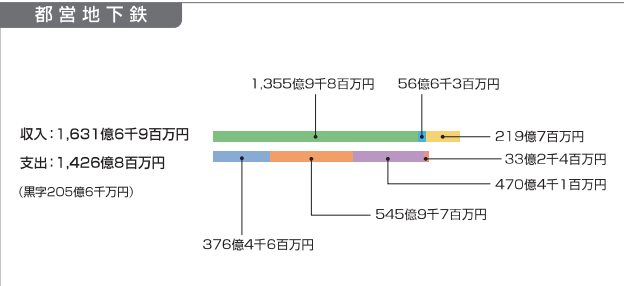
(注)数字は表示単位未満を四捨五入しており、合計等と一致しない場合があります。



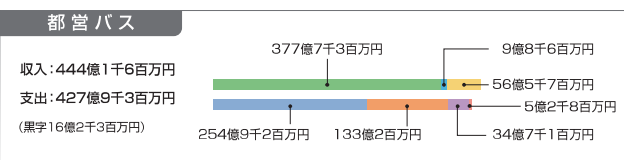
凡例

収入 乗車料収入・電力料収入 補助金 長期前受金戻入・その他

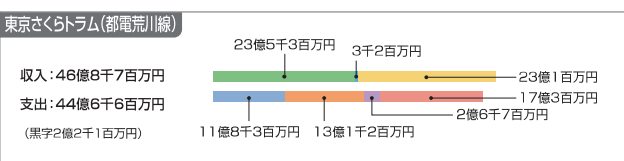
支出 人件費 物件費 減価償却費 支払利息・その他



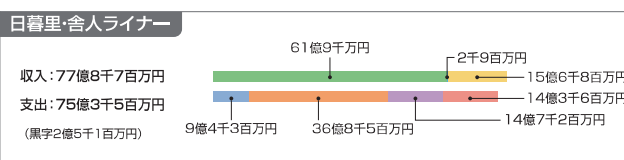
- 主な設備投資
- 電力施設設備の更新 43億円
浅草線大門変電所及び大江戸線光が丘変電所について、変電設備の更新を行いました。
 - 泉岳寺駅の大規模改良 37億3千7百万円
ホームやコンコースの拡張、エレベーターの増設などの改良に向けた土木工事を進めました。
 - 車両の更新(大江戸線) 16億4百万円
大江戸線車両を1編成更新しました。



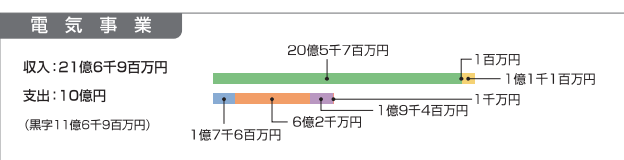
- 主な設備投資
- ひとと環境にやさしいバスの導入 15億1千7百万円
最新の排ガス規制に適合したバスを67両導入し、既存の車両を更新しました。
 - 停留所上屋の整備 9千4百万円
停留所上屋の新設、建替を行いました。



- 主な設備投資
- 踏切保安設備機器の更新 7千8百万円
踏切保安設備機器など、安全確保のための設備更新を行いました。



- 主な設備投資
- 車両の更新 21億5千6百万円
混雑緩和を図るため、4編成について全ての座席をロングシート化した車両に更新しました。



- 主な設備投資
- 白丸調整池ダム管理棟受電設備等の設置 5億4百万円
白丸調整池ダムの管理棟移設に伴い受電設備等の設置を行いました。

令和6年度貸借対照表 (令和7年3月31日現在) (単位:百万円)

	高 速 電 車 事 業 会 計	交 通 事 業 計	電 気 事 業 計
(資 産 の 部)			
1 固 定 資 産	1,296,039	185,909	4,055
(1)有 形 固 定 資 産	1,284,186	76,182	4,038
(2)無 形 固 定 資 産	1,045	690	15
(3)投 資 そ の 他 の 資 産	10,807	109,037	1
2 流 動 資 産	182,014	37,334	8,678
(1)現 金 及 び 預 金	156,350	29,079	8,515
(2)未 収 金	15,840	7,420	140
(3)貯 蔵 品	3,904	274	
(4)前 払 費 用	95	17	
(5)前 払 金	5,698	527	19
(6)未 収 収 益	98	17	4
(7)そ の 他 流 動 資 産	28		
資 産 合 計	1,478,052	223,243	12,733
(負 債 の 部)			
3 固 定 負 債	588,092	75,044	135
(1)企 業 債	211,685	59,299	
(2)長 期 借 入 金	245,000		
(3)リ ー ス 債 務	761	282	4
(4)引 当 金	30,646	15,463	130
(5)そ の 他 固 定 負 債	100,000		
4 流 動 負 債	67,518	21,631	652
(1)企 業 債	15,317	5,352	
(2)リ ー ス 債 務	207	76	1
(3)未 払 金	20,293	9,472	634
(4)未 払 費 用	210	24	
(5)前 受 金	7,213	1,406	
(6)引 当 金	2,683	1,699	15
(7)預 り 金	1,596	3,602	3
(8)そ の 他 流 動 負 債	20,000		
5 繰 延 収 益	369,030	1,261	484
(1)長 期 前 受 金	369,030	1,261	484
負 債 合 計	1,024,640	97,935	1,271
(資 本 の 部)			
6 資 本 金	524,575	56,200	3,031
(1)一 般 会 計 出 資 金	524,575	11,841	
(2)再 評 価 積 立 金 組 入 額		1,261	
(3)減 債 積 立 金 組 入 額		30,900	1,633
(4)中 小 水 力 発 電 開 発 改 良 積 立 金 組 入 額			851
(5)そ の 他 剰 余 金 組 入 額		12,198	548
7 剰 余 金	△ 71,163	67,724	8,431
(1)資 本 剰 余 金	99,616	172	0
(2)利 益 剰 余 金 (△ 欠 損 金)	△ 170,779	67,551	8,431
8 評 価 差 額 等		1,385	
(1)そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額		1,385	
資 本 合 計	453,412	125,308	11,462
負 債 ・ 資 本 合 計	1,478,052	223,243	12,733

※高速電車事業会計<都営地下鉄>、交通事業会計<都営バス、東京さくらトラム(都電荒川線)、日暮里・舎人ライナー>、電気事業会計<電気事業>

都営交通のあゆみ

事業全体

明治	
44(1911). 8. 1	東京市電気局開局、路面電車事業と電気供給事業(発電事業)を開始
大正	
12(1923). 9. 1	関東大震災で施設等に大きな被害を受ける
13(1924). 1.18	乗合バス事業開始
昭和	
18(1943). 5.29	(財)東京市電気局協力会(一財)東京都営交通協力会の前身)設立
18(1943). 7. 1	都制施行により「東京都交通局」と改称
20(1945). 3.10	東京大空襲で施設等に大きな被害を受ける
23(1948). 5.14	(株)はとバス設立
27(1952). 5.20	トロリーバス事業開始
29(1954). 4. 1	貸切バス事業開始
32(1957).12.17	モノレール事業開始(上野動物園モノレール「東園」～「西園」開業)
32(1957).12.22	電気事業開始(多摩川第一発電所運転開始)
35(1960).12. 4	地下鉄事業を開始(1号線「浅草橋」～「押上」開業)
38(1963). 5. 3	(株)東京交通会館設立
42(1967). 1. 1	財政再建団体の指定を受ける
42(1967). 6. 1	東京都交通事業財政再建計画(第一次財政再建計画)を策定(昭和41～48年度)
43(1968). 9.29	トロリーバス事業廃止
44(1969).10.16	東京交通サービス(株)設立
48(1973).10. 1	特定バス事業開始
51(1976).10.22	第二次財政再建計画を策定<昭和51～55年度>
55(1980).11.26	第三次財政再建計画を策定<昭和56～58年度>
59(1984). 1.18	東京都交通事業経営健全化計画を策定<昭和59～平成2年度>
62(1987).11.12	東京トラフィック開発(株)設立
63(1988). 4. 1	お忘れもの取扱所(後のお忘れものセンター)開設
63(1988). 7.28	東京都地下鉄建設(株)設立
平成	
2(1990). 5.15	広報誌「ふれあいの窓」創刊
2(1990).12. 6	東京都交通局総合案内所(後の都営交通インフォメーションセンター)開設
3(1991). 3.28	東京都交通局長期経営基本方針を策定<平成3～12年度>
3(1991). 4. 1	都庁移転に伴い、本局が東京交通会館(有楽町)から都庁第二本庁舎(新宿)に移転
3(1991).12.24	東京都交通局前期総合実施計画(都営交通プラン91)を策定<平成3～5年度>
4(1992). 2.27	サービス推進本部設置
6(1994). 4.28	東京都交通局中期総合実施計画(都営交通プラン94)を策定<平成6～8年度>
9(1997). 2.27	東京都交通局後期総合実施計画(都営交通プラン97)を策定<平成9～12年度>
11(1999). 4. 1	ホームページ開設
13(2001). 3. 5	東京都交通局経営計画(チャレンジ2001)を策定<平成13～15年度>

18(2004). 3. 9	東京都交通局経営計画(チャレンジ2004)を策定<平成16～18年度>
18(2006). 4. 3	都営交通巡回モニター制度開始
18(2006).1.22	交通局安全方針策定
19(2007). 2. 2	東京都交通局経営計画(新チャレンジ2007)を策定<平成19～21年度>
19(2007). 3.18	ICカード乗車券「PASMO(パスモ)」サービス開始
19(2007). 6.13	「都営交通安全の日」実施
19(2007).11.28	「事故から学ぶ展示室」の設置
20(2008). 3.30	日暮里-舎人ライナー開業
22(2010). 2.22	東京都交通局経営計画(ステップアップ2010)を策定<平成22～24年度>
23(2011). 3.11	東日本大震災
23(2011). 8. 1	都営交通創業100周年
23(2011). 8. 1	「ToKoPo(トコポ)」サービス開始
25(2013). 2.15	東京都交通局経営計画2013を策定<平成25～27年度>
25(2013). 3.23	10の交通系ICカードによる全国相互利用開始
25(2013). 4. 1	都営交通インフォメーションセンターと東京都交通局お忘れものセンターを拡大再編し、都営交通お客様センターを開設
28(2016). 2. 2	東京都交通局経営計画2016を策定<平成28～33年度>
28(2016). 5. 1	新たな情報発信プロジェクト「PROJECT TOEI」始動
31(2019). 1.25	東京都交通局経営計画2019を策定<平成31(令和元)～令和3年度>
31(2019). 5.3	オープンデータ提供開始
令和	
2(2020). 5.18	「モバイルPASMO」サービス開始
2(2020). 5.30	「都営交通アプリ」配信開始
2(2020). 4. 7	新型コロナウイルス感染症の拡大により、東京都に緊急事態宣言
2(2020).10. 6	「Apple PayのPASMO」サービス開始
3(2021). 1.20	緊急事態宣言等を踏まえ、都営地下鉄及び日暮里-舎人ライナーについて終電を繰り上げ。また、深夜バスの一部路線について、最終便を繰り上げ
3(2021). 7.23	東京2020オリンピックパラリンピック競技大会開催
4(2022). 5.30	東京都交通局経営計画2022を策定<令和4～6年度>
4(2022). 3.28	「Google PayのPASMO」サービス開始
5(2023). 5.18	「障がい者用PASMO」サービス開始
5(2023). 4. 1	「ToKoPoステップアップポータル」を開始
5(2023). 5. 8	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行
5(2023).12.27	モノレール事業廃止
6(2024). 5. 5	「TOEIスマート定期予約」サービスを開始
7(2025). 5.28	東京都交通局経営計画2025を策定<令和7～9年度>



東京市電気局庁舎
(昭和15年)

都営地下鉄

昭和	
29(1954). 3.29	都議会、都営による地下鉄の建設を決議
33(1958). 3. 1	1号線(現浅草線)の免許を取得
35(1960).12. 4	1号線「押上」～「浅草橋」開業、京成線と相互直通運転を開始
37(1962). 5.31	1号線「浅草橋」～「東日本橋」開業
37(1962). 9.30	1号線「東日本橋」～「人形町」開業
38(1963). 2.28	1号線「人形町」～「東銀座」開業
38(1963).12.12	1号線「東銀座」～「新橋」開業
39(1964).10. 1	1号線「新橋」～「大門」開業
43(1968). 6.21	1号線「大門」～「泉岳寺」開業、京浜急行線と相互直通運転を開始
43(1968).11.15	1号線「泉岳寺」～「西馬込」開業
43(1968).12.27	6号線(現三田線)「志村(現 高島平)」～「巣鴨」開業
44(1969). 7.26	6号線6000形車両がローレル賞受賞
44(1969). 8. 1	6号線「志村」を「高島平」に駅名変更
47(1972). 6.30	6号線「巣鴨」～「日比谷」開業
48(1973).11.27	6号線「日比谷」～「三田」開業
49(1974). 7.28	駅冷房を開始(1号線「新橋」)
51(1976). 5. 6	6号線「高島平」～「西高島平」開業
53(1978). 7. 1	1号線を「浅草線」、6号線を「三田線」、10号線を「新宿線」に路線名変更
53(1978).12.21	新宿線「岩本町」～「東大島」開業
55(1980). 3.16	新宿線「新宿」～「岩本町」開業、京王線と相互直通運転を開始
58(1983).12.23	新宿線「東大島」～「船堀」開業
61(1986). 9.14	新宿線「船堀」～「篠崎」開業
63(1988). 1. 1	全駅で改札内終日禁煙を実施
63(1988). 5.21	冷房車両導入開始(新宿線)



浅草線開業
(昭和35年)

平成	
元(1959). 3.19	新宿線「篠崎」～「本八幡」開業
元(1959). 3.19	浅草線「江戸橋」を「日本橋」に駅名変更
3(1991). 3.31	浅草線、北総・公団線(現北総鉄道)と相互直通運転を開始
3(1991). 3.31	浅草線5300形を導入
3(1991). 6.27	初の女性鉄道営業職員が誕生
3(1991). 9. 1	駅構内の全面禁煙を開始
3(1991).12.10	12号線(現大江戸線)「練馬」～「光が丘」開業
5(1993). 6.22	三田線6300形を導入
5(1993).11.11	12号線にTカード導入
6(1994). 6.25	全駅に自動改札機設置完了
6(1994).11. 1	Tカードを全線に拡大
7(1995). 7. 2	浅草線5000形車両引退
8(1996). 3.26	営団地下鉄(現東京メトロ)とのカード共通化を実施
9(1997).12.19	12号線「新宿」～「練馬」開業
9(1997).12.24	新宿線急行運転開始
10(1998).10.14	12号線都庁前駅が「関東の駅百選」に選定される
11(1999). 8.31	初の女性車掌誕生
11(1999). 9.30	三田線6000形車両72両をインドネシア共和国へ譲渡
11(1999).11.28	三田線6000形車両引退
11(1999).12. 3	三田線にATCを導入
12(2000). 4.20	「12号線」を「大江戸線」に名称変更
12(2000). 4.20	大江戸線「新宿」～「国立競技場」開業
12(2000). 8. 6	新宿線東大島駅が「関東の駅百選」に選定される
12(2000). 8.10	三田線全27駅のホームドア整備完了
12(2000). 9.18	大江戸線でラッピングライナー(全面広告車両)運行開始
12(2000). 9.26	三田線「三田」～「目黒」開業、東急目黒線と相互直通運転を開始、ワンマン運転を開始
12(2000).10.14	共通乗車カードシステム「バスネット」導入
12(2000).12.12	大江戸線「国立競技場」～「大門」～「都庁前」開業
12(2000).12.28	大島車両検修場でISO14001の認証を取得
13(2001). 4.14	大江戸線サービススタッフ活動開始(H17.3.31終了)
13(2001).10. 1	大江戸線の環状部10駅がグッドデザイン賞を受賞
14(2002). 2.28	認定鉄道事業者制度における「一般認定」を取得(以降、5年ごとに更新)
14(2002). 5.30	大江戸線飯田橋駅が日本建築学会賞(作品)を受賞
14(2002).10.27	浅草線、芝山鉄道と直通運転を開始
14(2002).11. 2	大江戸線汐留駅開業
15(2003). 2.25	初の女性運転士誕生

都営地下鉄

平成

15(2003). 4. 1	駅業務の外注を実施
16(2004). 4. 1	駅ナンバリング実施
17(2005). 4. 1	駅案内係「コンシェルジュ」を配置
17(2005). 5. 9	新宿線に女性専用車を試験的に導入（H18.12.11本格実施）
17(2005). 5.14	新宿線10-300形車両を導入
17(2005). 9. 5	列車運行情報表示装置の設置を開始（H19.3.28全駅に設置完了）
18(2006). 4. 1	大江戸線車両けん引用にE5000形車両（電気機関車）を導入
18(2006). 4. 1	汐留連絡線使用開始
18(2006). 4. 1	「こども110番の駅」の取組を開始
18(2006). 7. 1	AEDを全駅に設置
18(2006).11. 3	浅草線5200形車両引退
20(2008). 1.11	Tカード（バスネット）の発売終了
20(2008). 3.15	共通乗車カード「バスネット」の自動改札機での使用終了
21(2009). 4. 3	新宿線東大島駅で駅工コ実施
24(2012). 2.23	大江戸線12-600形車両を導入
25(2013). 3.31	全地下鉄駅の冷房化100%達成
25(2013). 4.27	大江戸線全38駅のホームドア整備完了
26(2014). 2. 1	総合指令全面運用開始
26(2014). 4.22	「Tokyo Subway Ticket」発売
26(2014). 6. 1	消費税率改定に伴う運賃改定を実施
26(2014).12. 1	訪日外国人向け無料Wi-Fiサービスを開始（主要35駅）
27(2015). 3.24	三田線志村三丁目駅、西台駅、新高島駅及び新宿線船堀駅待合室の供用を開始
28(2016). 2. 5	車内で訪日外国人向け無料Wi-Fiサービスを開始
28(2017). 2.21	訪日外国人向け次世代券売機導入開始
30(2018). 3.10	「ツーリストインフォメーションセンター」を上野御徒町駅構内に設置
30(2018). 6.30	浅草線5500形車両を導入
31(2019). 2.11	勝どき駅新設ホーム供用開始

令和

元(2019). 7.31	「子育て応援スペース」設置車両運行開始
元(2019). 9.10	新宿線全21駅のホームドア整備完了
元(2019). 9. 1	「PASMO PASSPORT」発売開始

元(2019). 9. 1	消費税率改定に伴う運賃改定を実施
2(2020). 3. 7	浅草線4駅（新橋、大門、三田、泉岳寺）のホームドア整備完了
2(2020). 3.14	企画乗車券をICカードに搭載して発売開始
2(2020). 3.14	Tokyo Subway TicketのQRコード引換開始
2(2020). 3.30	企画乗車券購入代金のクレジットカード決済を開始
3(2021). 7.21	「ツーリストインフォメーションセンター」を新橋駅、新宿西口駅構内に設置
4(2022). 5.14	三田線6500形車両を導入
5(2023). 1.18	大江戸線に女性専用車を導入
5(2023). 2.24	浅草線5300形車両引退
5(2023). 3.17	普通回数乗車券の発売終了
5(2023). 3.18	三田線、東急新横浜線と相互直通運転、相鉄線と直通運転を開始
5(2023). 7. 7	大江戸線 上野御徒町駅に「こどもスマイルスポット」を開設
5(2023). 7.19	都営地下鉄「子育て応援スペース」が「第4回 日本子育て支援大賞2023」受賞
6(2024). 2.20	浅草線全20駅にホームドア整備完了
6(2024). 2.29	都営地下鉄全106駅にホームドア整備完了
6(2024). 2.29	「翻訳対応透明ディスプレイ」を試験導入
7(2025). 5.30	大江戸線浜松町変電所を新設



三田線6500形車両導入
(令和4年)



都営地下鉄全駅ホームドア整備完了
(令和6年)

都営バス

大正

13(1924). 1.18	乗合バス事業開始
17(1942). 2. 1	陸上交通事業調整法により路面交通事業8社10事業を統合
22(1947). 6.25	民営バスとの相互乗り入れ運転開始
28(1954). 4. 1	貸切バス事業開始
40(1965). 2.16	乗合バスワンマンカー導入開始
45(1970). 3. 1	初のバスレーン設置
47(1972).11.12	バス系統表示変更（番号式から駅名方式へ）
48(1973).10. 1	特定バス事業開始（H19.4.1休止）
48(1974). 2.25	ミニバス運行開始（S58.8.22廃止）
54(1979). 8. 1	冷房車両導入開始
56(1981). 4. 1	二階バス運行開始（H13.3.31終了）
57(1982). 4. 1	早稲田営業所にバスロケーションシステム導入
57(1982). 5.26	新塗装バス運行開始
58(1983). 8.22	ミニバス廃止
59(1984). 3.31	都市新バス・都01グリーンシャトル（渋谷駅前～新橋駅前）運行開始
63(1988).12. 5	深夜バス（ミッドナイト25）4系統運行開始

平成

2(1990). 6.18	深夜中距離バス（銀座～三鷹駅北口）運行開始（H12.12.12廃止）
2(1990).12.10	深夜急行バス（上野駅～春日部駅西口・ミッドナイトアロー・春日部）運行開始（H6.4.4休止）
3(1991). 4. 1	シャトルバス運行開始（新宿駅西口～都庁循環）
3(1991). 4. 1	超低床バス運行開始
3(1991).12.16	ディーゼル・電気ハイブリッドバス導入開始
4(1992). 3.27	リフト付超低床バス導入開始
4(1992). 3.30	銀ブラバス運行開始（H12.3.1廃止）
4(1992). 9. 8	初の女性運転手誕生
5(1993).11.11	Tカード（都バス・都電用）を導入
6(1994). 1.18	ディーゼル・蓄圧式ハイブリッドバス導入開始
6(1994). 1.18	車高調整装置（ニーリング）付バス導入開始
6(1994). 2.25	アイドリングストップ&スタートシステム付バス導入開始
6(1994). 4. 4	深夜急行バス運行休止
6(1994).10. 1	バス共通カード導入（H22.7.31取扱終了）
6(1994).12.21	CNG（圧縮天然ガス）バス導入開始
7(1995). 3.11	黒煙除去装置（DPF）付バス導入開始
7(1995). 3.17	らくらくステップバス（新低床バス）導入開始
9(1997). 3.19	ノンステップバス導入開始
10(1998). 3.30	東京駅からお台場への直通「快速バス」運行開始（H15.3.31廃止）
10(1998). 4. 1	都バス1日乗車券窓口発売開始
10(1999). 5. 1	虹01系統及び快速バスにPTPS（公共車両優先システム）導入
11(1999). 2.20	CNGノンステップバスを全国で初めて導入開始

11(1999). 3.31	アクセスラインバス（AL01・東大島駅～さくらホール前循環）運行開始
11(1999). 7. 8	都バスマスコットキャラクター「みんくる」誕生
11(1999).10. 1	デジタルMCA無線によるバス運行管理システムを導入
12(2000). 4.10	ラッピングバス運行開始
12(2000).11.12	全国に先駆けて低硫黄軽油の使用を開始（H13.4.1全営業所に導入）
12(2000).12.12	大江戸線全線開業に伴うバス路線の再編整備を実施
12(2000).12.12	ラビットバス、ダイレクトバス、フレキシブルバス運行開始
15(2003). 1. 8	都バス運行情報のインターネット配信開始
15(2003). 3.31	粒子状物質減少装置（DPF）の装着完了
15(2003). 4. 1	営業所の管理の委託を開始（杉並支所）
15(2003). 8.28	燃料電池バスの実証実験による営業運行開始（H16.12.28終了）
19(2007). 3.26	「都庁第一本庁舎」に広告付停留所を試験設置
20(2008). 4.26	観光路線バス運行開始
21(2009). 4.13	非接触型ハイブリッドバス走行実験実施（H21.4.27終了）
22(2010). 6.30	環境性能に優れた次世代合成燃料を使用したバスの実証運行開始（H22.12.23終了）
23(2011). 1.21	非接触型ハイブリッドバス走行実験開始（H23.2.14終了）
23(2011). 3.14	東日本大震災に伴う東京都の支援（医療救護班の派遣）（H23.4.26終了）
25(2013). 3.31	ノンステップバス 全車両導入完了
25(2013). 5.26	GPSを用いたバス運行管理システムによる都バス運行情報の配信開始
26(2014). 4. 1	消費税率改定に伴う運賃改定を実施
27(2015). 7.27	燃料電池バスの都営バスへの導入に向けた実証実験実施（H27.7.30終了）
29(2017). 3.21	市販車では日本初となる燃料電池バスの営業運行開始
30(2018). 8.12.25	日本初となるフルフラットバスの営業運行を開始

令和

元(2019).10. 1	消費税率改定に伴う運賃改定を実施
2(2020). 1.20	リフト付き観光バス運行開始
2(2020). 3.30	有明自動車営業所開所
2(2020). 3.31	回数乗車券発売終了
2(2020). 9.30	円太郎バスが国の重要文化財に指定
3(2021). 8. 7	二人乗りベニーカーを折り畳みずにはすべての路線で乗車可能に
6(2024). 1.18	乗合バス事業開始から100周年
7(2025). 4. 1	有明自動車営業所で国内初となるバス営業所内水素ステーションの運用開始
7(2025). 6.10	EVバスの営業運行を開始



円太郎バス運行開始
TT型フォード11人乗ワンマンバス
(大正13年)



燃料電池バス営業運行開始
(平成29年)

組織と職員数

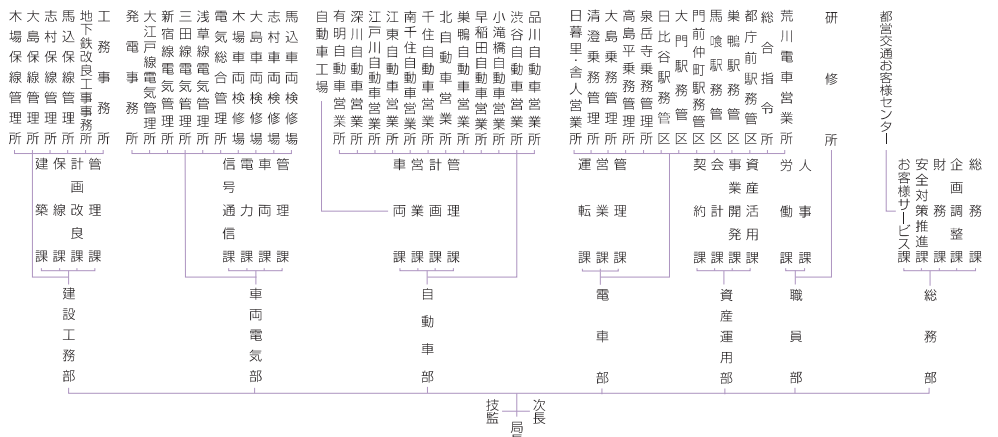
令和7年4月1日現在

東京さくらトラム(都電荒川線)

明治	
15(1862). 6.25	東京馬車鉄道(株)[後の東京電車鉄道(株)]が新橋〜日本橋間に馬車鉄道を開業
36(1903). 8.22	東京電車鉄道(株)[後の東京鉄道(株)]が品川〜新橋間に路面電車を開業
44(1911). 8. 1	東京市電気局開局、東京鉄道(株)を買収し、路面電車事業を開始
44(1911). 8.20	王子電気軌道(株)が飛鳥山上〜大塚間に路面電車を開業(現在の荒川線「飛鳥山」〜「大塚駅前」)
昭和	
5(1930). 3.30	王子電気軌道「面影橋」〜「早稲田」開業(現在の荒川線全線に相当する区間が開業)
17(1942). 2. 1	陸上交通事業調整法により路面交通事業8社10事業(王子電気軌道(株)を含む)を統合
34(1959).10.20	自動車の軌道敷内敷入れが実施される
42(1967). 8. 1	東京都交通局事業財政再建計画を策定、路面電車の廃止を決定
42(1967).12.10	第一次都電撤去
47(1972).11.12	第六次都電撤去、27系統「三ノ輪橋」〜「王子駅前」と32系統「荒川川車庫前」〜「早稲田」を残して撤去終了
49(1974).10. 1	27系統と32系統を一本化し、「荒川」線と改称
53(1978). 4. 1	全車ファン化
53(1978). 5.18	新7000形車両、ローレル賞受賞
58(1994). 3. 1	冷房車両導入開始
61(1996). 4.10	運行管理システムを導入
平成	
2(1990). 5. 2	8500形車両を導入
5(1993).11.11	Tカード(都バス・都電用)を導入
6(1994). 4. 1	電車無線使用開始
6(1994).10. 1	バス共通カードを導入 (H22.7.31取扱終了)
8(1996). 2. 5	初の女性運転手誕生
9(1997).10.14	三ノ輪橋停留場が「関東の駅百選」に選定される
12(2000). 5.31	ラッピング広告車両運行開始
12(2000).11.11	新停留場「荒川川車庫前」(ジョイフル三ノ輪前)を開設
15(2003). 5. 1	全停留場で終日禁煙を実施
19(2007). 5.26	荒川川電車営業所内に「都電おもいで広場」を開設
	三ノ輪橋停留場リニューアル
19(2007). 5.27	レトロデザインの9000形車両を導入
20(2008). 6.14	桂ヶ谷停留場を都電都営桂ヶ谷停留場に名称変更
21(2009). 4.26	先進性と快適性をめざした8800形車両運行開始
29(2011). 4.18	都電マスコットキャラクター「とあらん」誕生
29(2011).10. 1	都営交通100周年記念花電車運行開始 (運行日10月1日、10日、16日、23日、30日)
	消費税率改定に伴う運賃改定を実施
26(2014). 4. 1	トリップアドバイザー「2015エクセレンス認証」受賞
27(2015). 6.22	8900形車両導入
27(2015). 9.18	軌道緑化実証実験スタート
29(2016). 3. 3	7700形車両導入
29(2016). 5.30	停留場副名称決定(熊野前「首都大学東京荒川キャンパス前」、荒川二丁目「ゆいの森あらかわ前」)
29(2017). 1.16	都電荒川線委託決定「東京くらトラム」
30(2018).10.21	駅ナンバリング実施
	都営交通案内所「三ノ輪橋おもいで館」を開設
令和	
2(2019).10. 1	消費税率改定に伴う運賃改定を実施
5(2020).10. 1	グッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞
6(2024).10. 1	荒川線誕生50周年
7(2025). 4. 1	「デジタル一日乗車券」を通年発売

日暮里・舎人ライナー

昭和	60(1985).7.11 運輸政策審議会(答申第7号)が、日暮里-舎人線は、輸送需要を勘案の上、「新交通システム等」を導入すると答申
平成	7(1985).12.28 特許取得(東京都地下鉄建設(株)) 9(1987).12.1 工事着工 18(2006).11.13 路線名、駅名決定 19(2007).10.1 東京都地下鉄建設(株)から東京都交通局への軌道事業の譲渡許可(平成20年3月30日付議決) 19(2007).10.31 運賃認可 20(2008).3.30 日暮里-舎人ライナー開業 20(2008).10.27 乗車人員1千万人を達成 26(2014).6.1 消費税率改定に伴う運賃改定を実施 27(2015).10.1 330形車両導入 29(2017).5.1 320形車両導入 29(2017).11.16 駅ナンバリング実施
令和	元(2019).10.1 消費税率改定に伴う運賃改定を実施 1(2020).2.27 カメラ付インターホン導入 2(2020).3.14 企画乗車券をICカードに搭載して発売開始 2(2020).3.30 企画乗車券購入代金のクレジットカード決済を開始 4(2022).1.5 江北駅に副名称「東京女子医大足立医療センター」設定 5(2023).3.17 普通回数乗車券の発売終了
その他	
明治	44(1911).3.1 東京市電気局開局、渋谷、品川、深川の3ヵ所発電所による電気供給事業開始
昭和	17(1942).4.1 配電統制令により電気供給事業を関東配電へ移譲 27(1952).5.20 トロリーバス事業開始 32(1957).12.17 モノレール事業開始(上野動物園モノレール開業) 32(1957).2.22 多摩川第一発電所運転開始 38(1963).2.23 多摩川第三発電所運転開始 42(1967).7.1 モノレールに2代目車両(M形)を導入 43(1968).9.29 トロリーバス事業廃止 60(1985).2.19 モノレールに3代目車両(30形)を導入
平成	12(2000).4.1 モノレールの施設を都建設局に無償譲渡(管理・運営は引き続き都交通局) 12(2000).11.1 白丸発電所運転開始 13(2001).5.31 モノレールに4代目車両(40形)を導入 24(2012).11.1 条例改正により、発電した電気の供給先を拡大 25(2013).4.1 新電力(特定規模電気事業者)に電気の供給を開始
令和	元(2019).11.1 モノレール運行休止 3(2021).11.6 再生可能エネルギーPR館「エコつと白丸」を開館 5(2023).12.27 モノレール廃止



令和7年3月31日現在

事 務 技 術				運 転								地下鉄車掌		鉄道営業		交通技能		その他		合 計	
				地下鉄		バ ス		都 電		新交通											
1,327名	14名	765名	6名	697名	8名	1,911名	64名	86名	1名	19名	1名	295名	1名	605名	19名	626名	7名	78名	9名	6,399名	132名

左列：常時勤務職員

右列：定年前再任用短時間勤務職員及び暫定再任用短時間勤務職員

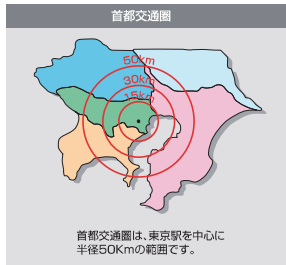
東京の交通

東京都は、約1,405万人の人々が住み、また隣接する他県から都内へ通勤・通学する人々で、昼間人口が約1,632万人にもなる大都市です。(令和2年国勢調査より)

東京都区部では、一日約3,217万人の人々が公共交通機関を利用して移動しています。具体的には、都心と郊外を結ぶJRや私鉄、主に23区内を走る地下鉄(都営地下鉄・東京メトロ)、さらに、お客様の身近な足であるバス(都営バス・民営バス)などが人々の移動を支えています。

東京都交通局は、地方公営企業法に基づき、地下鉄、バス、都電、日暮里舎人ライナー等を経営しており、東京都都区部における交通機関別占有率の約11.0%を占めています。

(2020(令和2)年版 都市・地域交通年報より)



都営交通に関するご案内

◆東京都交通局ホームページ◆

都営交通の運行情報や時刻表、トピックス、ニュースリリース、イベント情報などの最新情報を提供しています。

また、外国語版（英・中文繁体・中文簡体・韓・タイ・スペイン・フランス）も展開しています。



URL <https://www.kotsu.metro.tokyo.jp>



◆東京都交通局公式SNS◆

交通局では、X(旧 Twitter)、Facebook、Instagram及びYouTubeによる情報発信を行っています。

◆日本語 X (旧 Twitter)◆



都営交通の運行情報、イベント情報などを発信しています。

<https://x.com/toeikotsu>



Facebook



東京都交通局の取組やイベント情報を紹介しています。

<https://www.facebook.com/toeikotsu>



Instagram



都営交通に関する魅力的な写真・動画等を紹介しています（英語併記）。

https://www.instagram.com/toeitransportation_official/



YouTube



都営交通沿線の魅力や事業の紹介動画などを配信しています。

<https://www.youtube.com/user/toeikotsu>



みんなく・とあらんのゆるる都Channel



<https://www.youtube.com/@minkuruchannel>



◆外国語

X(旧 Twitter)

運行情報を発信しています（英語のみ）。

https://x.com/toeikotsu_eng

Facebook

都営交通の利用方法や沿線の観光情報などを紹介しています。

英語：<https://www.facebook.com/toeitransportation.eng/>

中文繁体：<https://www.facebook.com/toeitransportation.chh/>

韓国語：<https://www.facebook.com/toeitransportation.kor/>

タイ語：<https://www.facebook.com/toeitransportation.thai/>

◆都営交通アプリ◆

都営地下鉄各列車のリアルタイムの走行位置や運行状況、駅構内の情報、号車ごとの混雑予測情報など、利用する際に便利な情報を発信しているほか、東京さくらトラム（都電荒川線）や日暮里・舎人ライナー、都営バスの情報もご覧いただけます。

また、あらかじめ選択した路線に遅れや運転見合わせなどが発生した場合、運行情報をプッシュ通知で受け取ることができます。

App Storeは、Apple Inc.の商標です。
Google Playは、Google LLCの商標です。



Google Play

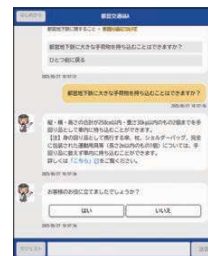


App Store



◆都営交通チャットボット◆

ホームページ及び都営交通アプリ上でチャットボットサービスを提供しています。



◆広報誌等◆

パンフレットやwebサイト、SNSなどを通じ、沿線情報や交通局の取組を紹介しています。

おもな広報誌等

- ふれあいの窓<webサイト・SNS>
- 都バス沿線ガイド 乗り歩き隊<パンフレット>
- 都電沿線情報マガジン さくらたび.<パンフレット・webサイト・SNS>
- 日暮里・舎人ライナー沿線ガイド にとね<パンフレット>

◆お忘れものの取り扱い◆

都営交通の駅や車内でお忘れものは、拾得してから概ね3日目までは駅や営業所で保管、概ね4～6日目までお忘れもののセンターで保管します。

その後は警視庁遺失物センターへ移送します。



◆お忘れものお問い合わせ

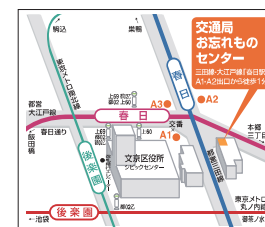
パソコンやスマートフォンから24時間チャットでお問い合わせいただけます。

※受付は24時間
※回答は9～22時（21時以降のお問い合わせは翌日9時以降に回答）
※日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国語の4か国語に対応しています。



※URL：
<https://service.finds.co.jp/lp/kotsu-metro-tokyo>

◆東京都交通局 お忘れものセンター 9:00～20:00（無休）



◆都営交通お客様センター◆

都営交通に関するお問い合わせ等（運賃、時刻、お忘れものお問い合わせ、ご意見・ご要望など）を電話、FAX、ホームページにて承ります。三者通話により外国語での対応も可能です。

お問い合わせ先 午前9時～午後8時（年中無休）

電話 03-3816-5700
03-3816-5711（注）外国語対応
FAX 03-3812-7640

- ◆自動通話ガイダンスに従って、下記の3つのうちから希望のお問い合わせ内容にあわせて番号をお選びください。
- 1番：運賃・時刻・ルートなどのお問い合わせ
 - 2番：お忘れ物などのお問い合わせ
 - 3番：その他、ご意見・ご要望など
- （注）三者通話ダイヤル（英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語）